

平成 26 年度
富良野市教育行政評価報告書

教育委員会事務事業点検・評価
学 校 第 三 者 評 価

平成 27 年 8 月

富 良 野 市 教 育 委 員 会

目 次

I	点検・評価の概要	
1、	教育委員会事務事業点検・評価	1
2、	学校評価	1
3、	点検・評価の手法及び公表	1
II	教育委員会の活動点検・評価	
1、	教育委員会の活動の一覧	5
2、	教育委員会議	11
3、	教育委員会活動の評価	11
III	平成 26 年度教育委員会事務事業点検・評価	
○	事務事業点検・評価結果一覧	13
○	教育委員会行政組織図	15
○	学校教育課所管事務事業点検評価シート	16
○	社会教育課所管事務事業点検評価シート	39
○	生涯学習センター所管事務事業点検評価シート	62
○	図書館所管事務事業点検評価シート	68
○	富良野学校給食センター所管事務事業点検評価シート	72
IV	平成 26 年度学校第三者評価	77
V	教育行政評価委員会の開催について	
1、	教育行政評価委員会	87
2、	教育行政評価委員会における意見	88
資料 1	富良野市教育行政評価委員会設置要綱	91
資料 2	教育行政評価委員名簿	92
資料 3	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	92
資料 4	平成 26 年度 富良野市教育委員会 重点事項	93

I 点検・評価の概要

1、教育委員会事務事業点検・評価

富良野市教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と行政評価の透明性を図り市民への説明責任を果たすことを目的として、平成 20 年度分の事務事業から点検・評価を実施しています。

今年度も、平成 26 年度の教育に関する事務の管理及び執行状況として 60 事業に対する点検・評価を実施しました。

2、学校評価

学校評価については、平成 19 年 6 月に学校教育法、同年 10 月に学校教育法施行規則の一部改正が行われ、学校自己評価・学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者（市教育委員会）への報告が義務化されました。これを受け、富良野市教育委員会では平成 19 年度から試行的に学校評価に取り組み、平成 20 年度から本格実施をしています。

学校第三者評価については、平成 20 年に文部科学省より示された「学校評価ガイドライン」に基づき、当事者や関係者ではなく「学識経験のある知見を有する第三者」による学校評価を行うため、平成 26 年度評価においては評価項目 16 項目、25 観点について教育行政評価委員会において実施しました。

3、点検・評価の手法及び公表

1) 教育委員会事務事業点検・評価報告

平成 26 年度に実施した教育委員会の主な事務事業の実績を「事務事業点検評価シート」にまとめ、それぞれの目標に照らし合わせた成果を基に必要性・有効性・効果性などを各分野別において点検し、今後の課題や改善策をまとめ、担当課により次の基準で達成度・効果度の評価を行い、その結果を教育行政評価委員会におい

て説明し、各委員より意見をいただきました。

①達成度の評価

事業の進捗状況として、当該年度において事業がどの程度まで実施できたのかを評価する。

<評価基準>

- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価

事業の実践により、当該年度に得られた効果がどの程度なのかを評価する。

<評価基準>

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

2) 学校第三者評価

学校第三者評価は、学校が自ら学校運営を改善し、その教育水準の向上を図るとともに、保護者や地域住民等の理解と参画を得て学校づくりを進めていくため、自己評価や学校関係者評価に加えて実施するもので、単に学校に点数を付けたり、格付けしたり、監視したり、教諭を評価するための仕組みではなく、より良い「開かれた学校」をめざして行っています。

評価の方法は、「学校評価ガイドライン」で示されている評価項目を重点化し、平成23年度に富良野市学校教育指導委員会より答申のあった16項目25観点について各学校で自己評価をし、これを受けて、教育行政評価委員が「学校自己評価」や「学校関係者評価」を参考に、学校訪問並びに学校関係者との意見交換を実施いたしました。

3) 公表

公表は議会、市広報紙・市ホームページに掲載するとともに、市の主な公共施設でも報告書を閲覧できるようにいたします。

4) 評価結果

平成 26 年度の事務事業点検・評価の結果について、評価基準 A～D の 4 段階で集計を行いました。

◎事務事業評価

第 1 表 事務事業評価【達成度】

	A	B	C	D
件数	32	28	0	0
構成比 (%)	53.3	46.7	0	0

評価基準 A：実践が進み成果を上げている。

B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。

C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。

D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

第 2 表 事務事業評価【効果度】

	A	B	C	D
件数	47	13	0	0
構成比 (%)	78.3	21.7	0	0

評価基準 A：期待どおりの効果が得られたと判断される。

B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。

C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。

D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。



第1回評価委員会議(5/29)

山部小学校訪問(7/8)



山部中学校訪問(7/8)

校長会会長・副会長との意見交換
(7/21)



Ⅱ 教育委員会の活動点検・評価

平成 26 年度の教育委員会の活動点検・評価については、「教育委員会会議」「学校訪問」などの項目に分け、教育委員会独自による点検を行いました。

1、教育委員会の活動の一覧

教育委員会会議については、偶数月に定例会を、必要に応じ臨時会を開催しました。また、毎月 1 回教育委員協議会を開催し、教育に関する様々な案件について協議しました。定例会については、開催予定や傍聴、報道機関への案内をするとともに、市ホームページに会議の内容等を掲載しています。

以下、平成 26 年度の会議開催状況等を示し、それぞれの活動内容について報告します。

1) 平成 26 年度教育委員会会議実施状況

(1) 開催回数

定例会：6 回（原則として偶数月第 3 水曜日）

臨時会：10 回（随時）

委員協議会：13 回（原則として毎月第 3 水曜日）

(2) 付議件数

内 容	件 数
条例、規則等に関する事	9
議会の議決を経るべき議案に関する事	11
人事に関する事	1
委員の委嘱等に関する事	16
その他	14
計	49

2) 教育委員会議の開催状況

回	開催日	開催内容
第2回定例会	4月25日	(1)富良野スポーツセンター条例施行規則の一部改正について (2)富良野市教育委員会教育行政評価委員の委嘱について (3)富良野市社会教育委員の委嘱について (4)富良野市学社融合推進委員の委嘱について (5)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について (6)富良野市スポーツ推進委員の委嘱について (7)学校開放主事及び管理指導員の委嘱について (8)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について (9)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について
第4回臨時会	5月26日	(1)富良野市いじめZERO推進条例の制定について (2)富良野市特別支援連携協議会設置規則の一部改正について (3)富良野市社会教育委員の委嘱について
第5回臨時会	6月14日	(1)富良野市教育委員会教育長の任命について (2)富良野市教育委員会委員長の選挙について (3)富良野市教育委員会委員長職務代理者の指定について
第3回定例会	6月24日	審議議案なし
第6回臨時会	7月31日	(1)富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について (2)富良野地区視聴覚教育協議会の廃止について
第7回臨時会	8月14日	(1)富良野市立学校教員の不祥事について
第4回定例会	8月27日	(1)平成27年度から使用する教科用図書の採択について (2)平成25年度富良野市教育行政評価報告について (3)平成26年度就学時健康診断員の委嘱について
第8回臨時会	9月26日	(1)富良野市いじめZERO(ゼロ)推進条例施行規則制定について (2)平成26年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について
第9回臨時会	10月9日	(1)富良野市立学校教員の不祥事について
第5回定例会	10月21日	(1)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について (2)富良野市第2次特別支援教育マスタープラン(基本計画)の策定について (3)富良野市青少年表彰規則に基づく平成26年度表彰者の決定について (4)富良野地区視聴覚ライブラリーの設置及び管理に関する規則の廃止について
第10回臨時会	11月23日	(1)平成26年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
第6回定例会	12月19日	(1)平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について (2)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について

第1回臨時会	1月23日	(1)平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について (2)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について
第1回定例会	2月12日	(1)平成27年度教育行政執行方針について (2)富良野市教育委員会会議規則の全部改正について (3)地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備等に関する規則について (4)地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規程の整備等に関する訓令について (5)富良野市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に伴う条例案の意見聴取について (6)富良野市育英基金条例の一部改正について (7)富良野市立学校管理規則の一部改正について (8)上川教育研修センター組合規約の一部変更について (9)富良野市いじめZERO（ゼロ）推進基本方針の制定について
第2回臨時会	3月10日	(1)富良野市教育委員会の職務権限に属する事務の管理及び執行の特例に関する条例の制定に関する意見書の提出について (2)上川教育研修センター組合規約の変更に関する意見書の提出について (3)教職員人事の内申について
第3回臨時会	3月26日	(1)富良野市育英基金規則の全部改正について (2)富良野市スクールカウンセラーの委嘱について (3)富良野市子どもと親の相談員の委嘱について (4)平成27年度富良野市学校医等の委嘱について (5)平成27年度社会教育推進計画の策定について (6)富良野市子どもの読書推進プラン【第2次計画】の策定について

3) 教育委員会委員協議会の開催状況

回	開催日	開催内容
第5回協議会	4月25日	協議(1)富良野スポーツセンター条例施行規則の一部改正について 協議(2)富良野市教育委員会教育行政評価委員の委嘱について 協議(3)富良野市社会教育委員の委嘱について 協議(4)富良野市学社融合推進委員の委嘱について 協議(5)富良野市青少年補導センター補導員の委嘱について 協議(6)富良野市スポーツ推進委員の委嘱について 協議(7)学校開放主事及び管理指導員の委嘱について 協議(8)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(9)富良野市学校教育指導委員会委員の委嘱について 報告(1)平成26年度富良野市教育委員会重点事項について 報告(2)平成26年度授業公開日について 報告(3)平成26年度小中学校主な行事予定について

II 教育委員会の活動点検・評価

		報告(4)平成 26 年度学級編成及び学校教職員名簿について 報告(5)「少年野球国際交流事業」台湾派遣について 報告(6)富良野市いじめ ZERO 推進条例（案）について
第 6 回 協議会	5 月 26 日	協議(1)富良野市いじめ ZERO 推進条例の制定について 協議(2)富良野市特別支援連携協議会設置規則の一部改正について 協議(3)富良野市社会教育委員の委嘱について
第 7 回 協議会	6 月 24 日	報告(1)平成 26 年市議会第 2 回定例会について 報告(2)樹海小学校耐震改修工事の発注について
第 8 回 協議会	7 月 31 日	協議(1)富良野市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 協議(2)富良野地区視聴覚教育協議会の廃止について 報告(1)富良野地区中体連大会の結果について
第 9 回 協議会	8 月 27 日	協議(1)平成 27 年度から使用する教科用図書の採択について 協議(2)平成 25 年度富良野市教育行政評価報告について 協議(3)平成 26 年度就学時健康診断員の委嘱について 報告(1)学校施設整備に係る契約状況について
第 10 回 協議会	9 月 26 日	協議(1)富良野市いじめ ZERO(ゼロ)推進条例施行規則制定について 協議(2)平成 26 年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 報告(1)平成 26 年第 3 回富良野市議会定例会について
第 11 回 協議会	10 月 21 日	協議(1)富良野市いじめ問題審議会委員の委嘱について 協議(2)富良野市第 2 次特別支援教育マスタープラン（基本計画）の策定について 協議(3)富良野市青少年表彰規則に基づく平成 26 年度表彰者の決定について 協議(4)富良野地区視聴覚ライブラリーの設置及び管理に関する規則の廃止について
第 12 回 協議会	11 月 23 日	協議(1)平成 26 年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
第 13 回 協議会	12 月 19 日	協議(1)平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載について 協議(2)富良野演劇工場運営委員会委員の委嘱について 報告(1)平成 26 年第 4 回富良野市議会定例会について 報告(2)第 12 回ふらの演劇祭事業報告について 報告(3)第 8 回子ども未来づくりフォーラム事業報告について 報告(4)「2014 図書館まつり」実績報告について
第 1 回 協議会	1 月 23 日	協議(1)平成 26 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果概要について 協議(2)富良野市特別支援連携協議会委員の委嘱について 協議(3)育英事業の見直しについて 報告(1)東小学校屋外環境整備概要について 報告(2)イングリッシュキャンプについて

第2回協議会	2月12日	協議(1)平成27年度教育行政執行方針について 協議(2)富良野市教育委員会会議規則の全部改正について 協議(3)地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備等に関する規則について 協議(4)地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規程の整備等に関する訓令について 協議(5)富良野市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定に伴う条例案の意見聴取について 協議(6)富良野市育英基金条例の一部改正について 協議(7)富良野市立学校管理規則の一部改正について 協議(8)上川教育研修センター組合規約の一部変更について 協議(9)富良野市いじめZERO（ゼロ）推進基本方針の制定について
第3回協議会	3月10日	協議(1)富良野市教育委員会の職務権限に属する事務の管理及び執行の特例に関する条例の制定に関する意見書の提出について 協議(2)上川教育研修センター組合規約の変更に関する意見書の提出について 協議(3)教職員人事の内申について
第4回協議会	3月26日	協議(1)富良野市育英基金規則の全部改正について 協議(2)富良野市スクールカウンセラーの委嘱について 協議(3)富良野市子どもと親の相談員の委嘱について 協議(4)平成27年度富良野市学校医等の委嘱について 協議(5)平成27年度社会教育推進計画の策定について 協議(6)富良野市子どもの読書推進プラン【第2次計画】の策定について 報告(1)平成27年第1回富良野市議会定例会について

4) 学校訪問・各種行事・会議・研修会等への参加

実施月日	行 事 内 容	開催場所
4月2日	・教職員着任式	文化会館
4月8日	・転入校長、教頭歓迎会	ワインハウス
4月22日	・平成26年度上川管内教育委員会連合会総会及び第1回委員研修会	上川合同庁舎
4月25日	・教育委員学校訪問（扇山小、東小、山部中）	各小中学校
5月15日	・第25回富良野市少年育成協議会	図書館
5月20日	・平成26年第1回富良野市議会臨時会	市役所議事堂
5月26日	・教育委員学校訪問（樹海中、樹海小、布部小中、山部小）	各小中学校
5月28日	・平成26年度少年の主張大会	文化会館
5月下旬～	・各小中学校運動会（5月下旬～6月上旬）	各小中学校

II 教育委員会の活動点検・評価

6月15日	・富良野市戦公没者追悼式	朝日ヶ丘公園
6月15日	・平成26年度富良野市音楽大行進	雨天・文化会館
6月16～ 25日	・平成26年第2回富良野市議会定例会	市役所議事堂
6月24日	・教育委員学校訪問(麓郷小中、布礼別小、鳥沼小、富良野小)	各小中学校
7月4日	・社会を明るくする運動街頭パレード	市内
7月24日	・外国語指導助手退任式	図書館
7月24日	・上川管内教育委員会連合会委員研修会	比布町
8月27日	・平成26年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会	滝川市
9月6日	・東小学校新校舎・屋体完成落成式	東小学校
9月中旬～	・各小中学校学芸会、学校祭(9月中旬～11月上旬)	各小中学校
9月12～ 25日	・平成26年第3回富良野市議会定例会	市役所議事堂
9月25日	・第40回富良野市小中学校音楽発表会	文化会館
9月26日	・教育委員学校訪問(富良野東中、富良野西中)	各中学校
10月21日	・いじめ問題対策連絡協議会	図書館
10月23～ 25日	・平成26年度富良野市教育委員会教育委員道外視察	島根県松江市 出雲市
11月3日	・富良野市条列表彰式	市役所
11月3日	・富良野市文化団体協議会表彰式	文化会館
11月6～ 7日	・平成26年度上川管内教育委員連合会第2回委員研修会	上川町
11月20日	・市長と教育委員の懇談会	市役所
11月23日	・平成26年度富良野市青少年表彰式	文化会館
11月26日	・子ども未来づくりフォーラム	文化会館
12月9～ 19日	・平成26年第4回富良野市議会定例会	市役所議事堂
1月6日	・平成27年新年交礼会	文化会館
1月8日	・平成27年山部地区新年交礼会	山部福祉センター
1月8日	・平成27年東山地区新年交礼会	東山公民館
1月11日	・平成27年富良野市成人式	文化会館
1月16日	・平成27年富良野市新春教育懇話会	ハイランドふらの
1月23日	・市長と教育委員の懇談会	市役所
1月23日	・平成26年度富良野市PTA連合会新年懇親会	ハイランドふらの
2月7日	・東小学校開校40周年記念式典	東小学校
2月20日	・上川南部教育委員会教育委員研修会	中富良野町
3月2～ 19日	・平成27年第1回富良野市議会定例会	市役所議事堂
3月中旬	・各小中学校卒業式	各小中学校
3月26日	・校長、教頭惜別式	ハイランドふらの

2、教育委員会議

次に掲げる事項が、教育委員会議において議決が必要な事項で、それ以外の権限に属する事務は教育長に委任されている。

- (1) 教育行政の運営に関する一般方針を決定すること。
- (2) 学校その他教育機関の設置及び廃止すること。
- (3) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること。
- (4) 請願、陳情等の処理に関すること。
- (5) 1件300万円以上の教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること。
- (6) 1件300万円以上の工事の計画を策定すること。
- (7) 学校その他教育機関の敷地の選定及び変更を決定すること。
- (8) 道費負担教職員の懲戒及び道費負担教職員たる校長、教頭の任免その他の進退について内申すること。
- (9) 道費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (10) 人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- (11) 教育長、部長、課長、館長の任免を行うこと。
- (12) 法令、条例、規則に定める委員の任命又は委嘱すること。
- (13) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について市長に意見を申し出ること。
- (14) 通学区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (15) 富良野市育英基金条例による貸与、若しくは給付対象者を決定すること。
- (16) 校長、教頭、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (17) 長の補助機関たる職員、若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
- (18) 市文化財を指定し、又は指定を解除すること。
- (19) 児童生徒の出席停止に関すること。

3、教育委員会活動の評価

1) 議事について

条例や規則の改正、各種委員の承認等、事務的な手続きによるもの以外については、各委員の高い識見と課題解決に向けた積極的な発言が多くありました。また、各委員への報告や事前相談・協議、情報提供等により、円滑な会議運営がなされました。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 27 年 4 月 1 日から施行されることとなりましたので、新教育委員会制度に向けて、教育委員会議の進め方を見直し、十分な議案審議及び委員による意見交換ができる会議へと改善を図ってきました。

2) 学校訪問について

教育委員と事務局職員により市内 15 校の小中学校を全て訪問し、校長・教頭からの説明及び児童生徒の学習の様子を見学し、子ども達の学びの様子や学校の概要、運営方針、施設、教育環境、授業等さまざまな視点から、学校現場の実態把握と総合的な観点から学校の運営状況についての把握に努めています。

3) 各種市内行事、会議、研修会等への参加

各学校の運動会・体育祭・学芸会・学校祭・卒業式などの学校行事には、各委員が教育委員会を代表して出席をし、教育委員会が主管する教職員着任式、音楽大行進、青少年表彰式、成人式等の行事や式、会議に出席しました。さらに、全道、管内、富良野沿線の委員研修会にも積極的に参加しました。

また、教育委員道外視察研修では島根県松江市及び出雲市を訪問し、学力向上の取り組み、学校図書館支援、文化・スポーツ振興の推進について、先進事例の調査をしてきました。

4) 広報活動

定例会・臨時会の審議内容については、市のホームページで公開しています。教育委員会や学校で取り組んでいる状況について、市民の一層の理解と協力を得るために、今後も引き続き広報紙やホームページなどをはじめ、新聞・ラジオ等のメディアの活用を進め、開かれた教育行政、効果的な教育行政を推進しています。

Ⅲ 平成26年度教育委員会事務事業点検・評価

◎事務事業点検・評価結果一覧

所管課	評価項目		細項目		26年度評価		備考
					達成度	効果度	
学校教育課	1	市立小中学校配置計画	1	・適正規模適正配置に関する指針	A	A	
	2	学校施設整備	2	・東小学校校舎・屋内運動場改築事業	A	A	
			3	・樹海小学校耐震改修事業	A	A	
	3	全国学力・学習状況調査	4	・全国学力・学習状況調査	A	A	
	4	全国体力・運動能力等調査	5	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	A	A	
	5	幼児教育	6	・私立幼稚園就園奨励費補助事業	A	A	
			7	・預かり保育補助事業	A	A	
			8	・障がい児保育補助事業	A	A	
	6	心の教育	9	・適応指導教室事業	A	A	
			10	・スクールカウンセラー活用事業	B	A	
			11	・子どもと親の相談員活用事業	B	A	
			12	・心に響く道徳教育事業	A	A	
	7	少年育成協議会	13	・少年育成協議会	A	A	
	8	いじめZERO推進	14	・富良野市いじめ問題対策連絡協議会	A	A	新規評価項目
	9	特別支援教育	15	・特別支援教育支援員活動事業	B	A	
			16	・特別支援連携協議会事業	B	A	
10	キャリア教育	17	・富良野市キャリア教育推進会議	B	B		
11	食育	18	・食育推進事業	A	A		
12	情報教育	19	・ICT活用事業（電子黒板等利活用事業）	B	A		
13	国際理解教育	20	・外国語指導助手招致事業	A	A		
14	健康診断事業	21	・児童生徒、教職員健康診断実施事業	A	A		
15	小中学校歯科衛生	22	・フッ化物洗口事業	A	A		
16	高校教育	23	・高校教育の推進	A	A		
社会教育課	17	家庭教育	24	・家庭教育支援事業	B	A	
			25	・親と子のふれあい事業	B	B	
	18	生涯学習の基盤整備	26	・コミュニケーション教育推進事業	B	B	
	19	青少年教育	27	・子ども未来づくり事業（未来づくりフォーラム）	A	A	
			28	・子ども会育成事業	B	B	
			29	・青少年表彰事業	B	B	
			30	・青少年補導センター運営事業	B	B	
			31	・放課後子ども教室推進事業	B	A	
			32	・学社融合推進事業	A	A	
	20	成人教育	34	・ふらの市民講座事業	B	B	
	21	高齢者教育	35	・ことぶき大学運営事業	B	B	
	22	芸術文化	36	・富良野芸術文化事業協会事業	B	A	
			37	・子ども芸術鑑賞教室事業	B	B	
			38	・市民総合文化祭事業	B	B	
39			・ふらの演劇祭事業	B	A		
40			・舞台塾ふらの事業	B	A		

Ⅲ 平成26年度教育委員会事務事業点検・評価

所管課	評価項目		細項目	26年度評価		備考
				達成度	効果度	
社会教育課	23	スポーツ振興	41・スポーツ環境の整備	B	A	
			42・人材及び団体育成	B	A	
			43・スポーツ施設の整備及び管理運営	B	A	
			44・競技スポーツの育成	A	A	
			45・アスリート育成派遣事業	A	A	
			46・子どもスキー技術向上支援事業	A	A	
生涯学習課	24	文化財保護	47・文化財保護啓蒙・普及活動	B	B	
			48・歴史的建造物魅力再発見事業	A	A	
	25	博物館	49・博物館活動推進事業	A	A	
			50・自然体験・環境学習事業	A	A	
	26	文化振興	51・山部菊の会補助金	B	B	
			52・ふらの博物誌刊行事業	A	A	新規評価項目
図書館	27	図書館	53・図書館運営管理事業	A	A	
			54・図書資料整備事業	B	A	
			55・読書活動推進事業	A	A	
			56・子どもの読書推進事業	A	A	
富良野学校給食センター	28	富良野学校給食センター	57・安全安心な学校給食の提供	A	A	
			58・「富良野ふるさと給食」の実施	A	A	
			59・食に関する指導の推進	B	A	
			60・学校給食費の徴収	A	A	
評価結果：集計			A（実践が進み成果を上げている）	32	47	
			B（実践が進んでいる）	28	13	
			C（実践に努めている）	0	0	
			D（努力を要する）	0	0	
			計	60	60	

①達成度の評価基準

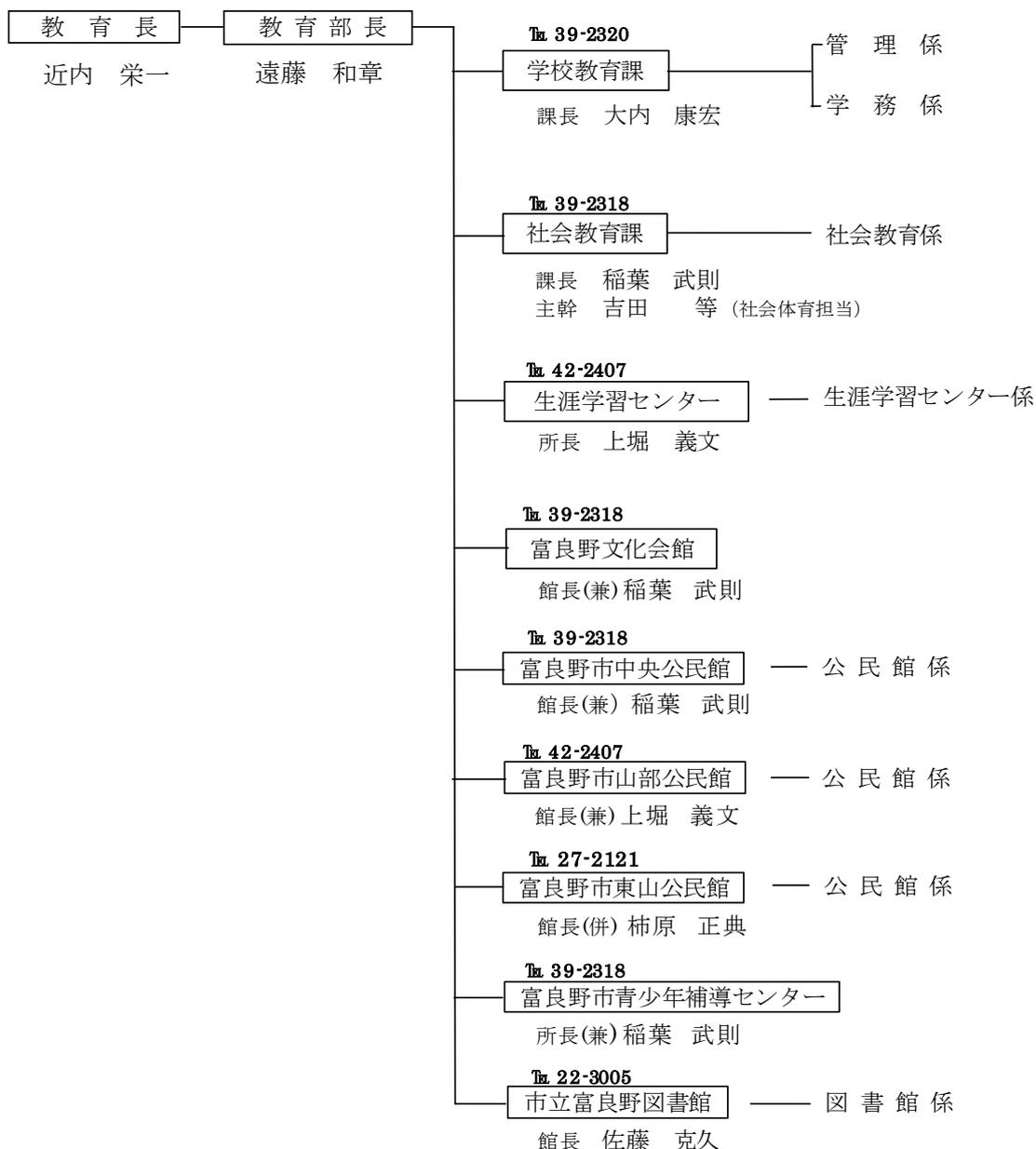
- A：実践が進み成果を上げている。
- B：実践が進み、達成度は比較的高いと判断される。
- C：実践に努めているが、達成度は低いと判断される。
- D：ほとんど（全く）実践されず、努力を要する。

②効果度の評価基準

- A：期待どおりの効果が得られたと判断される。
- B：やや期待どおりの効果が得られ、効果度が比較的高いと判断される。
- C：期待どおりの効果には達せず、効果度が低いと判断される。
- D：期待した効果がほとんど（全く）得られなかったと判断される。

富良野市教育委員会行政組織図

平成26年6月14日現在



富良野広域連合教育委員会行政組織図

平成26年7月1日現在



平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	市立小中学校配置計画					担当課	学校教育課				
事務事業名	適正規模適正配置に関する指針										
事業の目的・概要	少子化による児童生徒数の減少が進む中、子ども達にとって教育の機会均等の観点から十分な教育効果が得られ、又、公平性を保ちながら次代を担う子ども達が常に良好な教育環境を確保していくため方向性を示す。	事業年度	開 始		終 了						
			初回平成17～19年度 平成21年度		継 続						
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26				
			-	-	-	-	-				
前年度の課題	<p>○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。</p> <p>○残る学校の施設整備についても、それらの意見内容や方向性を考慮しながら実施の時期や内容を検討しなければならない。</p>										
当該年度の目標	○少子化による児童生徒数の減少から、学校の配置計画や規模の適正化などが課題となり、集団活動を通して社会性、協調性、自立性などを培う教育環境を考慮しながら整える。										
事業の実施状況	<p>平成22年度に市PTA連合会より提案された「今後の市内小中学校における教育環境整備の在り方」を受け、市の財政状況を見据えながら市内6校（富小・東小・東中・山部中・樹海小・樹海中）を順次計画的に検討、整備することとし、東小学校校舎・屋内運動場改築工事が平成26年度完了した。</p> <p>また、樹海小学校の校舎が耐力度調査の結果、危険であることが判明したため、耐震化工事に着手し完了した。</p>										
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証			
	達成度	A	A	A	A	A	○施設整備については、市PTA連合会要望に沿った整備が進んでいる。				
	効果度	A	A	A	A	A					
今後の取り組み	今 後 の 課 題										
	<p>○今後の学校の在り方については、単Pや地域との意見交換を重ねながら方向性を協議する必要がある。</p> <p>○残る学校の施設整備についても、それらの意見内容や方向性を考慮しながら実施の時期や内容を検討しなければならない。</p>										
	改 善 策										
今後の取り組み	<p>○麓郷、布礼別地区の学校については、それぞれの特徴を活かした学校活動の実践に向け、引き続きサポートを行う。</p> <p>○今後の児童生徒数の推移やPTA、地域の意向を十分に踏まえ、文部科学省から平成27年1月に示された公立小中学校の統廃合についての手引の改訂版を参考に、学校の適正規模適正配置指針の改正を行う。</p>										

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	東小学校校舎・屋内運動場改築事業						
事業の目的・概要	教育環境の向上と児童生徒の安全を確保するとともに、災害時の避難施設としての機能を高める。	事業年度	開始		終了		
			平成24年度		平成27年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
—	—		31,982	901,383	847,707		
前年度の課題	<p>○引き続き、児童生徒や地域住民に配慮しながら改築工事を進めるとともに、既存校舎の解体工事にあっては、安全な工事施工はもとより児童生徒や近隣住民の安全にも十分注意しながら行われなければならない。</p> <p>○新校舎への引越しを平成26年夏休み中に予定しているが、新校舎完成から2学期始業式までの期間が短いため、短時間で効率よく引越し作業を行わなければならない。</p>						
当該年度の目標	<p>○新校舎・屋内運動場改築工事の実施(工期:平成25年6月～平成26年7月)</p> <p>○既存校舎の解体と新校舎への移行</p> <p>○建物の配置変更に伴うグラウンド等整備の設計</p>						
事業の実施状況	<p>○耐力度調査の結果をもとに、校舎と屋内運動場の全面改築を実施。(平成26年7月完成)平成26年度2学期より新施設にて授業開始。</p> <p>○新施設概要 鉄筋コンクリート造 2階建 5,671㎡(校舎4,669㎡、屋体1,002㎡)</p> <p>○工事期間中の体育授業や運動会、学芸会等の実施にあたっては、人材開発センターなどの代替え施設を確保し実施。</p> <p>○国庫補助 公立学校施設整備費国庫負担金 72,580千円(平成26年度分) 学校施設環境改善交付金 229,280千円(平成26年度分)</p> <p>○旧校舎の解体を実施。(平成26年11月完了)</p> <p>○グラウンド等整備の設計委託を実施。(平成27年1月完了)</p>						
評価	達成度・効果度の検証						
		H22	H23	H24	H25	H26	
	達成度	—	—	A	A	A	
効果度	—	—	A	A	A	<p>○改築工事、解体工事とも、事故なく予定どおり完了することができた。また、工事に伴う授業などへの影響も代替え施設の確保や保護者・学校の協力により、最小限に留めることができた。新校舎への引越しも多くの保護者の協力により、スムーズに行うことができた。</p> <p>○児童の安全性や避難施設機能の向上はもとより、明るく開放感のある施設で、児童は元気に過ごしている。</p>	
今後の取り組み	今後の課題						
	<p>○建物の配置が大きく変わったことと改築工事によりグラウンドが荒れたため、グラウンドや前庭の整備が必要。</p>						
	改善策						
<p>○グラウンド等の整備については、できるだけ早期に着手するとともに、整備完了までの間は代替え施設を確保し、児童や授業への影響が最小限になるように配慮する。</p>							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	学校施設整備	担当課	学校教育課				
事務事業名	樹海小学校耐震改修事業費						
事業の目的・概要	旧耐震基準で建築された樹海小学校校舎の耐震補強工事を実施し、児童の安全を確保できるように施設を目指す。あわせて、災害時の避難施設としての機能向上を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成26年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		-	-	-	4,430	31,882	
前年度の課題	○平成26年度に耐震化及び改修工事を実施する予定であるが、実施にあたっては授業等への影響が最小限になるように施工方法や施工時期を検討する。						
当該年度の目標	○前年度に策定した耐震化実施設計に基づき工事を実施し、児童の安全を確保できる校舎に改修する。 ○経年により老朽化した設備等を改修し、教育環境の向上を目指す。 ○外部電源の接続装置を設置し、災害避難施設としての機能を向上させる。						
事業の実施状況	○改修前Is値0.62（耐震性不足） ⇒ 改修後Is値0.675 ○耐震化等工事概要 ・スリット工法による耐震化 ・教室と廊下を間仕切るブロック壁を改修 ・外壁補修及び塗装 ・窓ガラス、ガス給湯器、換気扇の交換及び網戸設置 ・外部電源入力装置 ・教室及び職員室のLED照明化 ○国庫補助 社会資本整備交付金(住宅・建築物安全ストック交付金) 11,682千円						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○計画どおり工事を施工し、児童の安全と教育環境及び災害時避難施設としての機能を向上させることができた。 ○施行にあたっては、授業内容に配慮するとともに、学校とも打ち合わせをしながら、児童や授業への影響を最小限に留めることができた。
	達成度	-	-	-	A	A	
	効果度	-	-	-	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○今後も市内各校の老朽化に伴う施設の不具合が予想されることや時代に即した教育環境の充実が求められることから計画的な修繕・改修が必要。						
今後取り組み	改 善 策						
	○山部中学校の校舎及び屋内運動場と樹海中学校の校舎及び屋内運動場が、新耐震基準施行前に建築された建物である。学校の適正規模・適正配置を考慮しながら耐震性能について調査していく必要がある。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国学力・学習状況調査	担当課	学校教育課				
事務事業名	全国学力・学習状況調査						
事業の目的・概要	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、その学習改善を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
国費	国費		国費	国費	国費		
前年度の課題	○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の学力の向上と状況調査						
事業の実施状況	<p>○実施日 平成26年4月22日(火)</p> <p>○実施対象及び人数 小学6年生:224名 中学3年生:229名</p> <p>○実施教科 国語、算数・数学</p> <p>学力調査の結果は、小学校では、国語の「知識」並びに算数の「知識」・「活用」に関する問題は、全道平均正答率と同等であり、国語の「知識」に関する問題は、全国平均正答率と同値である。 中学校では、国語・数学の「知識」・「活用」に関する問題はの全てにおいて、全国・全道平均正答率を上回る結果である。</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	A	A	A	A		A
						<p>○言語活動を重視した授業、演劇を通じた表現活動等により、自己表現や協調性が培われてきている。</p> <p>○また、表現教育は、反復練習(学習)や集中力アップ等の効果が期待でき、学力向上・コミュニケーション能力向上につながっている。</p> <p>○学力向上に向けた放課後学習や長期休業中の学習を全小中学校で取り組んでいる。</p>	
効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>○確かな学力向上をめざして、学習改善プランの実施とともに、授業改善及び授業公開と家庭学習を含め望ましい生活習慣の定着を図る必要がある。</p> <p>○富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会の3者で構成する富良野市学力向上推進プロジェクトが調査結果を分析し作成した、「富良野市における調査結果の概要」を基に取組を行う。</p>						
	<p>○調査結果を詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。</p> <p>○指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員等外部人材活用事業による時間講師の配置によるチームティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。</p>						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査	担当課	学校教育課					
事務事業名	全国体力・運動能力、運動習慣等調査							
事業の目的・概要	子どもの体力が低下している状況を踏まえて、国が全国的な子どもの体力状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検討し、その改善を図ることを目的とする。	事業年度	開始		終了			
			平成19年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
国費	国費		国費	国費	国費			
前年度の課題	○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果を把握・分析し、各学校における体育・健康に関する指導などの改善を図る必要がある。							
当該年度の目標	○児童生徒の体力の向上と現状調査							
事業の実施状況	○平成26年度は、4月から7月末の間に調査を実施 ・実施対象 小学校5年生：180名、中学校2年生：208名 ・実施種目 小学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ 中学生：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ ○体力合計点数では小中学校男女とも全道平均を上回っているが、全国平均は下回っている。また、児童・生徒への質問紙調査では、小中学生男女とも「スポーツが好き」と回答した率が全国平均より上回り、小学生女子・中学校男女は全道平均を上回り、小学生男子は全道と同値であった。 小中学校男女とも「運動部やスポーツをすることが得意」と回答した率が全国平均を上回り、小学校女子・中学校男女は全道平均を上回った。							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○各学校・地域を挙げた体力づくり、スポーツ少年団活動、部活動が継続的に取り組まれており、各種大会でも優秀な成績を上げている。
	達成度	A	A	A	A	A		
	効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今後の課題							
	○各学校でも独自に体力調査をおこなっており継続した取り組みが行われていることから、引き続き体力向上の取組みを継続する必要がある。 ○調査結果のデータを把握・分析し、児童生徒一人一人の体力や運動習慣等の改善の取組を進める必要がある。							
	改善策							
○小学校では少年団活動、中学校での部活動への積極的な加入を促し、家庭・学校・地域スポーツ関係団体と連携しながら「知育・徳育・体育」の調和のとれた成長を促進する。 ○「早寝・早起き・朝ご飯、みんなそろって晩ごはん」運動の取組みによる食育を通じた体力向上を図る。 ○新体力テストを全学年での実施をめざすとともに、体力向上に向けた具体的な数値目標を設定する。								

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	私立幼稚園就園奨励費補助							
事業の目的・概要	幼稚園教育の普及・充実と子育て支援を図るため、国の基準に準じ、保護者の経済的負担軽減を図ることを目的とする。	事業年度	開始		終了			
			継続					
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
		35,943	39,371	39,393	37,665	46,481		
前年度の課題	○国の制度で基準により実施している。 ○本制度に関しては国の補助率を1/3以内としているが、実際には20%強の補助金しか市町村に交付されていない。道等を通じて地方に過重な負担がかからないように働きかけが必要である。							
当該年度の目標	○保護者の負担軽減を図り、幼稚園教育を充実する							
事業の実施状況	○国の幼稚園就園奨励費補助金交付要綱（平成10年6月17日文部大臣裁定）に基づき実施。 ○園則に定める入園料及び保育料を上限に補助金を交付し、保護者の子育てにおける経済的負担を軽減する。 平成26年度支給者計 361名（平成25年度 332名、通園世帯の84%が該当） ○通園する89.6%の世帯が対象となっている。							
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A		○昨年以上の補助額の増加により、保護者の負担軽減となった。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今後の課題							
	○国の制度基準により実施している。 ○本制度に関しては国の補助率を1/3以内としているが、実際には20%強の補助金しか市町村に交付されていない。道等を通じて地方に過重な負担がかからないように働きかけが必要である。							
	改善策							
	○国に対しては、全国市長会などを通じて働きかけを行っている。							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	預かり保育補助事業						
事業の目的・概要	子育て支援を目的とし、また保護者の就業を支援するため、幼稚園における預かり保育の充実を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継 続				
事業の目的・概要	子育て支援を目的とし、また保護者の就業を支援するため、幼稚園における預かり保育の充実を図る。	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			1,221	1,413	1,369	1,421	1,446
前年度の課題	○子育て支援のさらなる充実						
当該年度の目標	○預かり保育の充実により、保護者ニーズに対応した幼稚園教育を実現する。						
事業の実施状況	<p>○幼稚園に対して預かり保育の充実及び保護者負担の軽減を図るため、預かり保育対象園児の人数及び延長時間実施の日数並びに、土日・長期休業期間の実施日に対して補助金を交付。</p> <p>○総園児数403名に対し126名(31%)が利用し、市内4園で8学級が開設されている。 1学級35名を限度に1名以上の教員を配置することを条件に補助。</p>						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	A	A	A	A	A	達成度・効果度の検証 ○預かり保育を希望する保護者のニーズに応じて実施されており、預かり保育利用料についても安価で行われている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○子育て支援のさらなる充実						
	改 善 策						
今後取り組み	○子育て支援のさらなる充実を支えるための予算措置を検討						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	幼児教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	障がい児保育補助事業						
事業の目的・概要	私立幼稚園における障がい児教育の充実と保護者負担の軽減を図る。	事業年度	開始		終了		
			継続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
800	600		400	900	600		
前年度の課題	○引き続き、幼稚園、保育所を含め障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
当該年度の目標	○引き続き、障がい児の幼児教育を受ける機会を確保する。						
事業の実施状況	○5月1日現在で在籍している障がい児に対する教育を実施するため補助金を交付 ○園児一人当たりの交付額 100,000円 ○平成26年度は市内4園のうち1園6名が対象 ○特別支援連携協議会にて、各小学校のコーディネーター、相談員等が幼稚園・保育所を訪問し、就学時のスムーズな引継ぎが行える取組みを実施。						
評価						達成度・効果度の検証 ○障がい児の幼児教育を受ける機会が確保できた。 ○市特別支援教育マスタープランに基づき、専門家チームが就学前相談や指導等を行い、連携強化を図っており成果が上がっている。	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	A	A	A	A		A
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○引き続き、幼稚園、保育所を含め障がい児に対する就学時のスムーズな引継ぎが行える連携が必要。						
	改 善 策						
	○特別支援連携協議会の取組みにより、障がい児の幼児教育のさらなる充実や義務教育への引継ぎを円滑に行う。 ○幼・保・小との連携を図るため「育ちと学びのファイル すくらむふらの」を活用し、円滑な就学支援を行う。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	適応指導教室事業						
事業の目的・概要	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し保護者、学校、関係機関等との連携のもと学校への復帰訓練と基本的な生活習慣の改善や豊かな情操・社会性の育成を図る。 ○不登校児童への支援及び不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図る。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校関係機関との連携強化に努める。 ☆焦らず、あきらめず、コミュニケーションを基本に推進	事業年度	開始		終了		
			平成15年度		継続		
事業の実施状況	○不登校児童への支援・指導内容の充実。 ○不登校児童生徒を抱える家庭を支援するとともに、教育活動の充実を図った。 ○ひきこもりや不登校問題の解決をめざし、家庭や学校・関係機関との連携強化に努めた。 ○平成24年度からより専門性を持った個々の課題に対応できる人材（臨床心理士等）を確保しきめ細やかな支援ができる体制を整えた。	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			1,800	1,800	2,592	2,592	2,592
前年度の課題	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知していく。						
当該年度の目標	○不登校及びその傾向にある市内の児童生徒に対し、学校への復帰訓練。						
評価	達成度・効果度の検証						
	達成度	A	A	A	A	A	○ひとり一人の実態に即した教育相談・学校支援や多様な体験活動、「ひきこもり」の解消、学校復帰、社会的な自立心の育成のため、生活意欲を培うとともに、基礎的な学力の定着・基本的な生活習慣の改善・豊かな情操・社会性を育む指導に努めている。併せて、保護者に対する支援や相談に重点を置いている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○不登校の児童生徒に対し、在籍校との連携を図りながら適応指導教室に通級してもらい、学校へ復帰を目指すとともに、適応指導教室の意義を学校及び保護者に広く周知する必要がある。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○周知の手段として「適応指導教室」での取り組みなどを諸会議で報告し、活動内容のチラシなどを配布するとともに、気軽に教室を訪問してもらおうよう、学校等への周知を深める。 ○適応指導教室に通級している児童生徒が抱える問題の多くは、家庭などにも原因が起因していることから、児童生徒及び家庭に対する一貫した支援が必要となっており、家庭、学校、関係機関及び家庭児童相談員との連携を図り取組んでいく。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	スクールカウンセラー活用事業						
事業の目的・概要	生徒の不登校や問題行動等の対応に当たっては学校におけるカウンセリング等の機能充実を図ることが重要な課題となっている。このため、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、生徒への心のケアを図る。 ・生徒へのカウンセリング ・教職者、保護者に対する助言・援助	事業年度	開始		終了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
道費	道費		道費	道費 一部市費 268	道費 一部市費 83		
前年度の課題	○各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にあることから引き続き、教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。						
当該年度の目標	○生徒の不登校、いじめへの対応と心のケア。						
事業の実施状況	○生徒へのカウンセリング ○教職員に対する助言・援助 ○保護者に対する助言・援助 ○H26年度実績 3校(中学校) (道費)日数・時間 28日×2校、18日×1校 256時間、来談者244名 ※生徒、教員、保護者 (市費)日数・時間 5日 15時間、来談者16名 ※生徒、教員、保護者 ※道費による派遣拡充事業 通年配置以外の1校で実施 1日4時間 実施内容・・・個別カウンセリング、教員研修						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○配置された学校で生徒・保護者・先生などがカウンセリングを受けた実績もあがり、生徒の心のケア、保護者との相談業務に着実な成果が上がっている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今 後 の 課 題 ○各学校では教育相談の充実を図っているところではあるが、思春期の子どもたちの心の成長過程において、悩み、不安を抱えることが多く、相談件数が増加傾向にある。引き続き教職員や保護者に対し、更なる適切な助言やきめ細やかな支援が必要である。 ○生徒や保護者にスクールカウンセラーについての理解を求めることが必要である。							
今後の取り組み	改 善 策 ○スクールカウンセラー、学校、適応指導教室等との情報交換と連携を図り、こうした事業の取り組みを積極的にPRし、気軽に相談を受けられる体制づくりを進めるとともに、小学校に子どもと親の相談員の配置を継続する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	子どもと親の相談員活用事業						
事業の目的・概要	児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また、学校と保護者・地域のパイプ役として不登校や問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応、児童虐待への対応及び小学校における教育相談体制の充実を図る。 ○相談員を小学校に配置 ①児童の話し相手・悩み相談 ②その他の学校の教育相談活動の支援	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
	374	1,644	1,661	1,658	1,754		
前年度の課題	○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。						
当該年度の目標	○いじめ・不登校などの未然防止や早期対応。						
事業の実施状況	○子どもと親の相談員を小学校に配置（富良野小学校、扇山小学校、東小学校） ①児童の話し相手・悩み相談 ②家庭・地域と学校の連携の支援 ③その他の学校の教育相談活動の支援 ④中休み・昼休みを中心に来室 来室者 延べ396名（心の相談・学習相談・児童同士の相談など） ※児童、教員、保護者						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	A	A	A	A	
達成度・効果度の検証							
	○教室とは違った親しみやすく和める場所として開放したことにより、訪れる児童が多い。 ○気になる児童や相談に訪れた児童の様子について担任に報告することで、よりきめ細かな見守りや相談活動を行うことができた。						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○問題を抱えている児童や保護者が相談員と関わることのできないケースへの対応、よりきめ細やかな対応が必要である。 ○配置している学校以外においても要相談ケースが発生しており、個別の対応が必要である。						
	改 善 策						
	○来談児童が多いことは、潜在的なニーズがあると思われることから、担任とは違った側面から児童や保護者との相談の場として専門的知識を有した者（臨床心理士等）の配置が引き続き必要。 ○配置校以外の学校においても、必要に応じた個別の対応が必要である。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	心の教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	心に響く道徳事業						
事業の目的・概要	自然体験や社会体験、生活体験の不足や人間関係の希薄さなどから規範意識や倫理観、生命を大切にし他人を思いやる心など、豊かな心を育む「心の教育」の充実に努めるため、地域の人材や多様な専門分野の社会人を外部講師として活用し、道徳の時間等において子どもの心に響く授業を行い、道徳教育の充実に図る。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
78	65		69	88	78		
前年度の課題	○富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
当該年度の目標	○命を大切にすることをはぐくむ教育を推進する観点から、児童生徒が命の尊さなどを実感できる道徳教育の充実						
事業の実施状況	○富良野ゆかりの講師による道徳教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・富良野商工会議所 会頭 荒木毅 実施校2校 演題「職業観と人間の生き方」 ・富良野自然塾 副塾長 林原博光 実施校2校 演題「環境教育と人間の生き方」 ・静琴書道学院 主宰 大橋静琴 実施校3校 演題「書を通しての生きざま」 ・北海道大学 農学研究院長 松井博和 実施校4校 演題「地球の歴史と人間の生き方について」 						
評価						達成度・効果度の検証 ○学習状況調査において、「人が困っている時は、進んで助ける」と答えた児童生徒の割合が高かったことから、命の大切さや他人を思いやる心が育ってきている。	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	A	A	A	A		A
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○富良野にゆかりのある身近な人材、バラエティに富んだ講師の確保が求められる。						
	改 善 策						
	○学校と講師の日程調整などを円滑に行いながら、多くの学校で富良野にゆかりのある講師による道徳教育を推進する。 ○市内企業からも講師派遣について協力を願う。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	少年育成協議会	担当課	学校教育課				
事務事業名	少年育成協議会						
事業の目的・概要	いじめや不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策などについて、関係機関団体などが連携して学校・家庭・地域でのネットワーク化を図り、日常的に情報交換を行い、迅速かつ的確に対応する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成18年度		平成26年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
前年度の課題	○各関係機関との連携を図りながら情報共有しているが、相互に連携した取り組みを進める必要がある。						
当該年度の目標	○地域で連携し子どもたちの安全・安心の推進。						
事業の実施状況	<p>○市内19の関係機関・関係団体が協議会を組織し、情報共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 開催日 5月15日</p> <p>○協議会構成団体 ・富良野市校長会 ・富良野市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部子ども未来課 ・家庭児童相談室 ・社会教育委員 ・富良野市教育委員会</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A	A	○各関係機関が連携し、ネットワーク化を図ることにより安全対策の推進につなげることができた。 ○子ども達の安全な地域づくりのために、情報を共有し各団体での取組に活かすことができた。
	効果度	A	A	A	A	A	
今 後 の 課 題							
今後取り組み	○「富良野市いじめZERO推進条例」の施行に伴い、富良野市少年育成協議会を発展的に解消し、「富良野市いじめ問題対策連絡協議会」として新たな活動を充実させる。						
	改 善 策						
	○「富良野市いじめ問題対策連絡協議会」へ移行し活動する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	いじめZERO推進	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市いじめ問題対策連絡協議会						
事業の目的・概要	富良野市いじめZERO推進条例に基づき、いじめの未然防止・いじめの早期発見・いじめの早期解消、その他いじめの対処を図るとともに不登校の防止・虐待防止・登下校時等の安全対策について学校やPTA・各関係機関・各関係団体と連携し、学校・家庭・地域のネットワーク化を図り、日常的に情報交換を行い、迅速かつ的確に対応する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成26年度		-		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		-	-	-	-	-	
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○いじめZEROに向けた取り組みと児童生徒へ「いじめは絶対にゆるされない」ことの意識向上を図る。						
事業の実施状況	○市内19の関係機関・関係団体が協議会を組織し、情報を共有する中で子どもたちの安全な生活環境の確保に努めている。 10月21日開催。 ○協議会構成団体 ・富良野市校長会 ・富良野市PTA連合会 ・富良野高等学校 ・富良野緑峰高等学校 ・富良野警察署 ・富良野保健所 ・富良野医師会 ・人権擁護委員 ・連合町内会協議会 ・子ども会育成連絡協議会 ・要保護児童対策地域協議会 ・生徒指導連絡協議会 ・富良野地方石油業協同組合 ・エクウエート富良野 ・民生委員児童委員協議会 ・保健福祉部こども未来課 ・家庭児童相談室 ・社会教育委員会 ・富良野市教育委員会						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	
	達成度	-	-	-	-	A	
	効果度	-	-	-	-	A	
	達成度・効果度の検証						
	○少年育成協議会のネットワークを継承し、各関係機関との連携を継続することにより安全対策の推進につなげることができた。 ○全家庭及び児童生徒へ「いじめZERO」パンフレットを作成(小学生用 2種・中学生用)配布し、いじめ問題への意識向上を図ることができた。						
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○いじめアンケートの結果を検証し、児童生徒への働きかけや授業(総合的な学習)等で「いじめ問題」への理解や意識向上を図る。 ○いじめZEROに向けて講演会を開催し、地域全体で子どもを見守り、安心安全な学校・地域づくりが必要。						
	改 善 策						
	○講演会やポスターや標語の募集などの取り組みを行い、各関係機関の理解を深める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援教育支援員活動事業						
事業の目的・概要	市特別支援教育マスタープランに基づき、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への教育的対応がより求められている。 こうした児童生徒に対する日常生活や学習支援、安全確保などの学習活動上のサポートを行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成20年度		継 続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		7,711	10,498	13,355	15,492	18,349	
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 ○増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 ○各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。 						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮・支援が必要な児童生徒は増えてきており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うための指導体制を進めている。 配置支援員 富良野小6名、扇山小5名、東小4名、山部小1名、鳥沼小1名、東中1名、西中1名の計19名(平成25年度 14名、平成24年度 12名) 対象児童 296名(平成25年度 264名、平成24年度 212名) 						
評価						達成度・効果度の検証	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	B	B	B	B		B
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれるとともに、ニーズに応じた支援員の増員が必要。 ○増加し続ける対象児童生徒数に対する支援員の配置基準の検討。 ○各学校に配置している支援員と教員、保護者が情報を共有し、連携を深めた指導が必要。 ○幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校との一貫した連携と幼児児童生徒の実態に即した個別の支援計画の作成が必要。 						
	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○研修・講習会に参加し、困り感を抱える児童生徒への適切な支援を行えるよう、更なるスキルアップを行う。 ○各学校が抱える課題を連携協議会で共有しながら、教育、福祉部門で課題解決ができる環境を整備する。 						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	特別支援教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	特別支援連携協議会事業						
事業の目的・概要	富良野市特別支援教育マスタープランに基づき、全ての幼児・児童・生徒が、障がいのあるなしに関わらず、お互いの個性を尊重しあいながら夢と希望を持って心豊かにたくましく育ち合う教育の充実を図る。 ・心身に障がいのある幼児及び児童生徒の適正な就学を図る ・協議会に知的部会・情緒部会・言語部会・専門家チーム(就学相談・就学指導)を設置	事業年度	開始		終了		
			平成20年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			238	177	114	160	130
前年度の課題	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 ○引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携と共通認識による引き継ぎが必要。						
当該年度の目標	○障がいのある児童生徒のほか、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、高機能自閉症等を含めた児童生徒一人一人のニーズに応じた教育の推進						
事業の実施状況	○組織体制の強化(就学相談・就学指導を行う専門家チームスタッフの増員) ○富良野市第二次特別支援教育マスタープランの作成 ○医療・福祉等関係機関との連携 ○就学時健康診断(知能検査、ことばの検査)の実施 10月14日、10月20日、10月27日 ○研修会の実施 ①WISC-III研修 (第1部 7月25日 48名)(第2部 8月1日 18名) ②道立特別支援センター研修会 8月25日 59名 ③特別支援教育研修会 9月24日 129名 (講師:北海道教育大学釧路校 地域学校教育専攻 准教授 二宮信一氏)						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	B	B	達成度・効果度の検証 ○特別支援教育支援員の増員により、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進を図ることができた。 ○組織体制の強化として専門家チームスタッフを小学校のコーディネーターが兼務し、児童の把握・理解がスムーズになった。
効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○困り感を抱える児童生徒が増加傾向にある。更なる就学予定児童の把握と教育相談を推進していくことが望まれる。 ○引き続き、保育所・幼稚園・小学校・中学校・高校・福祉・医療機関との一貫した連携と共通認識による引き継ぎが必要。						
今後取り組み	改 善 策						
	○就学相談を含めた相談支援体制のさらなる充実に向け、関係機関と情報共有し児童生徒の把握・理解をしていく。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	キャリア教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	富良野市キャリア教育推進会議						
事業の目的・概要	キャリア教育は学校教育において児童生徒が「生きる力」を身に付け、勤労観や職業観及び職業に関する知識・技能等の育成を図る観点から関係機関、団体等が一体となり、協議・連携を押し進めていく必要がある。	事業年度	開 始		終 了		
			平成17年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
前年度の課題	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒一人ひとりの望ましい勤労観・職業観の育成を図る。						
事業の実施状況	○職場体験実施校 中学校：6校 高等学校：2校 ○関係機関等との連携 ・富良野商工会議所により事業所紹介 ・ハローワーク旭川による職業講話の斡旋						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	○職場見学や職場体験学習等は、授業では味わえない経験ができているが、キャリア教育を教育活動全体を通じた活動となっていない。	
	効果度	B	B	B	B		
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○キャリア教育の目的意識の明確化を図る必要がある。 ○富良野市キャリア教育推進会議の活性化を図り、学校と事業所との連携を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○富良野市キャリア教育推進会議の開催により、学校と事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	食育	担当課	学校教育課				
事務事業名	食育推進事業						
事業の目的・概要	子どもたちに食の楽しさ・大切さを伝えるために、家庭だけでなく保育所・幼稚園・学校など地域の関係者が連携しながら、食育の重要性について共通の認識を持ち、子どもたちの健やかな心と身体を育んでいくことを目的とし、ガイドラインを基に食育推進を行う。	事業年度	開始		終了		
			平成20年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		33	35	4	27	15	
前年度の課題	○各学校の「食育の年間指導計画」と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しを行い、改訂版作成に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。						
事業の実施状況	○平成20年3月に策定した「子どもたちのための食育ガイドライン」をもとに概略版を作成し、幼稚園、保育所、学校で全員に配布。 ○栄養教諭(2名)の配置。 ○栄養教諭による食育指導と啓発活動。 ○市ホームページを通じて栄養教諭の活動を周知し、食育の重要性・取り組みを紹介。						
評価						達成度・効果度の検証 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」等をホームページに掲載し、広く市民に紹介。 ○概略版の作成・配布により、児童生徒及び保護者へ啓発。	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	B	A	A	A		A
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○各学校の食育の年間指導計画と連動し、学力や体力、運動能力向上に取り組む必要がある。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の検証及び評価と見直しを行い、改訂版作成に取り組む必要がある。						
	改善策						
	○健康診断等により児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携し「食育」を通じた健康管理を行う。 ○栄養教諭の増員に向け、全道市長会等を通じて強く要請していく。 ○学校給食の「食べ残しゼロ運動」や「早寝、早起き、朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動の促進を継続実施する。 ○「子どもたちのための食育ガイドライン」の改訂作業に取り組む。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	情報教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	ICT利活用事業（H20～21年度は教育用コンピューター整備事業、H22～25年度は電子黒板利活用事業）						
事業の目的・概要	ICTの利活用により、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、児童生徒の学習内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業年度	開始		終了		
			平成21年度		継続		
事業の目的・概要	ICTの利活用により、児童生徒の「関心、意欲、態度」という観点で効果があり、児童生徒の学習内容への理解向上を図ることを目的とする。	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。						
当該年度の目標	○ICTを活用した授業研究及び授業公開の推進と児童生徒の学習内容への理解向上						
事業の実施状況	○ICTを活用し、児童生徒の学習内容の理解向上を図る。 ○校内研修等によるICT活用方法の理解及び実践。 ○デジタル教科書の整備状況。 ・H23 小学校46セット 中学校14セット ・H24 小学校19セット 中学校2セット ・H25 小学校4セット 中学校1セット ・						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	B	B	達成度・効果度の検証 ○デジタル教科書等の活用により、教科指導の幅が広がり、児童生徒の学習意欲の向上が図れる。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○各学校及び市教研情報班において引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○市教研情報班において、引き続き教材研究や研修を促す必要がある。 ○情報セキュリティの確立に向けて、教職員の意識改革が必要。						
今後取り組み	改 善 策						
	○学校における情報セキュリティの確立に向け、情報提供を通じて教職員の意識改革を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	国際理解教育	担当課	学校教育課					
事務事業名	外国語指導助手招致事業							
事業の目的・概要	英語に慣れ親しみ日常会話や外国の文化、生活、習慣などを学ぶために、外国語指導助手を小中学校に派遣し、英語力向上を図る。	事業年度	開 始		終 了			
			平成7年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
		13,795	14,220	14,441	15,145	14,441		
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要である。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。 ○小学校における朝の英語活動を引き続き全小学校で実施。 							
当該年度の目標	○児童生徒が英語を理解し、表現する基礎能力を養い外国文化や生活習慣を学び、国際理解教育を英語力の向上から深める。							
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手を3名（JETプログラム2名、独自採用1名）、小学校外国語活動等アドバイザー1名の計4名を配置し、市内小学校・中学校に派遣して外国語活動や英語教育、総合的な学習時間等に派遣している。 ○外国語活動推進委員会を設置し、小中学校教諭、担当教諭と外国語指導助手との連携を図っている。 ○「英語が話せるふらのっ子」の推進に向けた取組みを実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における朝の英語活動を実施（ 校） ・えいごLANDの実施・・・扇山小学校、東小学校 ・イングリッシュキャンプの実施・・・平成27年1月13日～14日（生涯学習センター） ・社会科副読本の活用・・・英語版ムービー「ふらの」 							
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態について担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による体制が整備された。 ○「英語が話せるふらのっ子」の推進により、小学校において英語に触れる機会が増大している。 ○イングリッシュキャンプの実施において、大学生、市民ボランティアなどの協力を得ることができた。
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校から中学校英語へのスムーズな移行と学習意欲向上を促すための取組みと更なる連携が必要。 ○「英語が話せるふらのっ子」を推進する指導体制の充実が必要。 ○小学校における朝の英語活動を引き続き全小学校で実施。 							
	改 善 策							
	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校において外国語とふれ合う機会を増やすため、放課後の時間に「えいごLAND」など気軽に英語とかかわれる環境づくりを行う。 ○イングリッシュキャンプなどの事業を取り入れコミュニケーション能力の向上を図る。 ○「英語が話せるふらのっ子」をめざす観点から、ALTの独自採用を継続する。 							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	健康診断事業	担当課	学校教育課				
事務事業名	児童生徒、教職員健康診断実施事業						
事業の目的・概要	健康診断事業の円滑な実施によって、児童生徒、教職員の健康増進を図る。 ○児童生徒の健康診断＝毎学年定期に児童生徒の健康診断を行わなければならない。 (学校保健安全法第13条第1項) ○教職員健康診断＝学校の設置者は毎学年定期に職員の健康診断を行わなければならない。 (同法第15条第1項) ○就学時健康診断＝翌学年から就学させるべき者の健康診断を行わなければならない。 (同法第11条)	事業年度	開始		終了		
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			9,985	9,616	9,488	9,583	10,584
前年度の課題	○引き続き、児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
当該年度の目標	○児童生徒の健康診断の完全実施 ○教職員健康診断の受診率100%達成						
事業の実施状況	○児童生徒の健康診断 ・学校保健安全法第13条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ○教職員健康診断 ・同法第15条第1項に基づき毎学年定期に実施。 ・平成26年度受診状況 対象者198名中 198名受診(受診率100%) ・年2回の健診受診案内通知、未受診者に個別に呼びかけ実施 ○就学時健康診断 ・同法第11条に基づき実施。 ・平成26年度 就学児童 172名実施 ・何らかの支援が必要とされる児童を発見し、就学前から該当児童及び保護者への相談・支援を実施している。						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	A	A	達成度・効果度の検証 ○児童生徒の各種検診の実施により疾病の予防と早期発見につながっている。 ○教職員の受診率は100%となり、健康管理への意識向上が定着してきている。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童生徒及び保護者の健康管理への意識を向上させる必要がある。 ○児童生徒の健康状態を把握し、養護教諭と栄養教諭が連携しながら「食育」を通じた健康管理を行う必要がある。						
	改 善 策						
今後取り組み	○児童生徒及び保護者に対して、保健だよりの発行を通じ健康管理の意識向上を促す。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	小中学校歯科衛生	担当課	学校教育課				
事務事業名	フッ化物洗口事業						
事業の目的・概要	北海道は、全国に比べて、12歳児おけるむし歯が多い事から「歯・口腔の健康づくり8020推進条例」が制定されたことに伴い、北海道教育委員会としても幼児・児童生徒の歯・口腔の健康づくり推進を図るために小中学校でのフッ化物洗口の導入を支援している。さらに富良野市健康増進計画（第2次）においても歯科健康対策の推進としてフッ化物洗口実施による12歳児1人平均むし歯1.0歯未満が目指されたことから、事業実施を行う。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度				
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
	—	—	59	382	240		
前年度の課題	<p>○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。</p> <p>○誤飲等の事故予防対策として、各教職員への実施方法の徹底が必要。</p>						
当該年度の目標	○フッ化物洗口にあたって、教職員の負担軽減と誤飲等の事故が起こらないよう、対応とフッ化物洗口に対する正しい情報の提供。						
事業の実施状況	<p>○富良野市においては全小中学校において希望者のみフッ化物洗口を実施。フッ化物洗口を希望しない場合は、水道水によるぶくぶくうがいを実施。</p> <p>小学生は1,209名に対し実施率91.5%、中学生は692名に対し実施率81.7%であり、保育所・幼稚園での実施も行われている。</p>						
評価						達成度・効果度の検証	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	—	—	—	A		A
	効果度	—	—	—	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○歯科疾患の予防は「むし歯予防」及び「歯周病予防」が大切な事であり、フッ化物洗口のみならず、歯磨きの習慣を定着させることが必要。						
	改 善 策						
	○養護教諭を中心に、児童・生徒の歯・口腔の健康意識を向上させるための生活習慣を身に付けさせる指導を行う。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高校教育	担当課	学校教育課				
事務事業名	高校教育の推進						
事業の目的・概要	中・高の相互連携による教育振興と魅力ある高校づくりを図る。	事業年度	開 始		終 了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H21	H22	H23	H24	H25
—	—		—	—	—		
前年度の課題	○学力向上プロジェクトチームによる中学・高校の接続の在り方の研究、学力向上のための指導内容・方法の工夫、改善の検討が必要。 ○小学校とも連携し、学力向上に向けた取組みが必要である。						
当該年度の目標	○中高の情報を共有し、今日的な教育課題の解決を図る。 ○富良野地区の望ましい高校教育づくりを推進する。 ○地域や保護者の教育ニーズに対応した高校教育の充実を図る。						
事業の実施状況	○富良野市中高等学校経営連絡協議会 中学校・高等学校が生徒指導・進路指導などの今日的な教育課題について相互に連携し、富良野地区の高等教育の充実に向けて協議する。 ○学力向上プロジェクトチーム 富良野高校及び富良野緑峰高校合同説明会、各中学校での学校説明会、授業交流を実施。						
評価		H21	H22	H23	H24	H25	達成度・効果度の検証 ○市教委主催による二校合同説明会では、保護者の出席も多く、中高が連携して行った取り組みとして意義があるものとなっている。 ○中高間の授業交流では、お互いの課題を確認でき生徒の様子も知ることができた。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○各教科を中心とした授業交流を行い、学びの深まり度を検証する必要がある。						
	改 善 策						
	○授業交流を継続実施し、学びの深まり度を共通テーマとして研修を深める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	家庭教育支援事業						
事業の目的・概要	幼児・児童生徒の保護者及び地域の人々を対象に、家庭や地域の教育力をより高めるため、子どもの基本的な生活習慣・自立心・自主性・耐性などを培うことについて、関係機関・団体と連携し、学習機会の充実を図る。	事業年度	開始		終了		
			平成9年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			226	168	256	99	212
前年度の課題	○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
当該年度の目標	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実						
事業の実施状況	○家庭教育セミナー (4回 延137名参加) ・布部地区 (会場:布部小中学校) 「絵から読み取る子どもの心」 10/26 19名 ・麓郷地区 (会場:麓郷小中学校) 「フロアカーリング」 11/ 9 50名 ・東山地区 (会場:樹海小学校) 「樹海地区ハートでトーク」 12/ 9 48名 「簡単にできるお菓子づくり」 12/10 20名						
	○家庭教育講演会 (5回 延232名参加) ・「子どもの才能を發揮させる方法 ～身長・体力・学力・ダイエットに影響する生活習慣」 会場:東小学校 (市P連と共催) 10/22 88名 会場:文化会館 1/20 87名 ・ママたちの子育て塾「子どもたちに学ぶ家庭教育講座」 会場:文化会館 8/20 9/24 10/21 (全3回 延57名参加)						
評価	○家庭教育ハンドブック(乳幼児編、小学低・中学年編、小学高学年・中学生編)の作成、配布						
	○ケータイ、インターネットトラブル防止に関する小冊子の作成、配布						
		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
達成度	B	B	B	B	B	○家庭・地域の教育力向上につながっており、子育てに関する知識が増えるとともに、家庭教育の重要性について学ぶ機会となっている。	
効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○各関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や情報提供をしているが、多くの保護者が家庭教育に関して関心を持つように、より参加しやすい環境づくりや学習内容の検討、継続的な情報提供が必要である。 ○育児や子育てに積極的に関わる父親が増えつつあるが、セミナーや講演会に気軽に参加できる仕組みづくりや様々な情報提供を行う必要がある。						
	改 善 策 ○引き続き、多くの親が参加する機会を活用した学習機会の提供や情報提供に努める。 ○各種事業等を活用した父と子のふれあい交流を推進し、家庭教育への関心と参加を推進する。 ○家庭教育ハンドブック等の有効利用をはじめ、各関係機関・団体と連携し家庭教育に関する情報発信に努める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	家庭教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	親と子のふれあい事業						
事業の目的・概要	家庭や地域の人々との共感的な人間関係を大切にして、心のつながりを深める活動を通して、子どもの心身の発達を促す。	事業年度	開始		終了		
			昭和52年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
市民講座事業・図書館事業に掲載							
前年度の課題	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。						
当該年度の標目	○家庭の教育力を高めるための学習機会の充実 ○親子で楽しみながら、豊かな心を育てる共同体験機会の充実 ○地域の社会資源を活用した土曜日の教育支援体制の構築						
事業の実施状況	○市民講座【家庭教育・親子を対象にした講座】 (全4回 延20組 46名参加) ・親子お菓子づくり教室 パンケーキ 2/7 4組 10名 クッキー 2/21 6組 14名 アップルパイ 2/28 (2回開催) 10組 22名 ○読み聞かせ(図書館) ・絵本読み聞かせ会 43回 延 711名 ・おはなし会 12回 延 349名 ・えいごのおはなし会 9回 延 232名 ○こどもの図書館まつり 5/7~5/11 来館者2,552名						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○親と子がふれあう機会を通して絆を確認し、家庭教育の重要性を学ぶ場となっている。 ○親子のための講座開設時期が偏るとともに、子育てに関わる父親への参加促進不足
	効果度	A	A	A	A	B	
今後の取り組み	今後の課題						
	○公民館事業、図書館事業として取組んでいるが、各施設間の連携を図りながら親子のふれあいを深めるとともに、子どもの健やかな成長を目指すために事業内容を充実し、より多くの親子が気軽に参加できる機会の提供が必要である。						
今後の取り組み	改善策						
	○事業内容の検討を行い、関係する部署や関係する機関・団体、家庭教育サポート企業などと連携し、より多くの親子が参加できる機会を提供しながら事業展開を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	生涯学習の基盤整備	担当課	社会教育課				
事務事業名	コミュニケーション教育推進事業						
事業の目的・概要	コミュニケーション能力を育むことにより、人間形成・社会との関わりを理解することにより、「他者理解」「話す・聞くの基本」「信頼関係の構築」など基本的な要素が身に付き、地域における人と人との絆を深め地域振興につなげるため、演劇的手法を用いたワークショップ等を行い、コミュニケーションに係る学習機会の提供を行う。	事業年度	開始		終了		
			平成25年度		新規		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	—	—	1,197	1,186
前年度の課題	○広く情報提供等を行い、コミュニケーション教育事業(ワークショップ)への理解を深めてもらう必要がある。						
当該年度の目標	○ワークショップを開催し、市民及び関係団体等の学習機会を提供し、コミュニケーション能力の向上を図る。						
事業の実施状況	<p>○プログラム例(概ね2~3時間)</p> <p>①コミュニケーション・プログラム(アイスブレイク他シアターゲーム)</p> <p>②表現プログラム(演技・朗読・ダンス・ボディパーカッション他)</p> <p>③レクリエーション・プログラム(参加者全員で身体を使うプログラム)</p> <p>○実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 33回 ・参加人員 延656名 ・実施場所 文化会館、富良野演劇工場 他 <p>○対象者年齢別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生以下 延 136名 ・中高生 延 208名 ・成人(60歳未満) 延 183名 ・成人(60歳以上) 延 129名 						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	—	—	—	B	B	
	効果度	—	—	—	B	B	
今後の取り組み	今後の課題						
	○さらに広くコミュニケーション教育事業(ワークショップ)の情報提供等を行い、市民理解を深めてもらう必要がある。						
今後の取り組み	改善策						
	○各種媒体を通じて事業内容の情報提供等を行い、より多くの市民に学習機会の提供を行う。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	子ども未来づくり事業（子ども未来づくりフォーラム）						
事業の目的・概要	子どもの立場から「まちづくり」に対する自由な発想や意見を出し合い、自主的に社会参加するとともに市政に対する関心を高め、富良野市の未来を担う青少年を育成することを目的とする。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			94	74	31	37	29
前年度の課題	○事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。 ○児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力の向上、社会性やリーダーシップを育む機会とする必要がある。						
当該年度の目標	○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○自分やグループ内での考え、表現する力の育成と子ども一人ひとりの多様な考えを引き出す発表の場の提供						
事業の実施状況	○こども未来づくりフォーラム 「学校の授業や生徒会活動等で取り組まれている特色ある取組み」や「地域課題解決に向け自分達にできること」、「市民が取り組むべきこと」などについて発表した。 11/26 開催 会場：文化会館大ホール ・学習実践発表 8校 97名 ①東小学校5年生 11名 ⑤山部中学校生徒会 5名 ②富良野小学校6年生 12名 ⑥西中学校生徒会 11名 ③山部小学校5・6年生 25名 ⑦樹海小学校5・6年生 14名 ④東中学校生徒会 7名 ⑧扇山小学校6年生 12名 ・参加者（入場者）数 約430名 小中学校関係（児童生徒、教員） 10校 一般観覧者（議会、教委関係者、ことぶき大学生、保護者等）						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題						
	○事業内容の企画・実施（時間配分）について学校との打合せを充分行う必要がある。 ○児童・生徒の興味、関心を持たせる事業として多くの発表場面をつくり、より豊かな表現力・コミュニケーション能力の向上、社会性やリーダーシップを育む機会とする必要がある。						
今後取り組み	改善策						
	○学校との連携を図り、より計画的な事業推進を行うとともに、学習指導要領に沿った取り組み内容の充実を図る。 ○フォーラムの時間配分について、検討を行う必要がある。 ○授業時数の確保もあるが、多くの児童・生徒の参加促進を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課					
事務事業名	子ども会育成事業							
事業の目的・概要	異年齢集団である子ども会活動への参加奨励を図り、団体活動の基礎的知識や技術を学び、子ども会活動の活性化を図る。	事業年度	開始		終了			
			昭和38年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
		1,012	1,022	907	952	927		
前年度の課題	○子どもの減少等により子ども会加入が困難な地区もあるが、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○より効果的で多様な事業展開を図るため、学校教育など関係機関との連携を図る必要がある。							
当該年度の目標	○地域の教育資源を活かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加促進 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備							
事業の実施状況	○富良野市子ども会育成連絡協議会 ・加盟単位数 19団体 ・会員数 1837名 ○子ども会事業 ・リーダー研修会【前期】 8/7～9 46名 山部太陽の里キャンプ場(生涯学習センター) ・リーダー研修会【後期】 3/26～28 68名 国立大雪青少年交流の家 ・シニアリーダー研修会(青少年サークル) 9/23 8名 文化会館 ・2015イングリッシュキャンプ 1/13～14 19名 生涯学習センター ・かるた大会 1/18 5チーム22名 文化会館 ・ジュニアスノーフェスティバル(少年団本部と共催) 2/14 48名 空知川河川敷地 ・遊びの出勤事業 延6回(青少年サークルを単位・地区子ども会等へ派遣)							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○異年齢集団での様々な活動が、社会性を身につけさせ子どもの成長に大きく寄与している。
	達成度		B	B	B	B	B	
	効果度		B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題							
	○子どもの減少等により、子ども会や育成連絡協議会への加入が困難な地区もあり、引き続き加入の働きかけを継続して行う必要がある。 ○子ども会活動の基礎知識や技術を持った育成員の養成を継続して行い、子ども会の活性化を図る必要がある。 ○より効果的で多様な事業展開に向け、学校教育など関係機関団体との連携を図る必要がある。							
	改 善 策							
○子ども会加入の働きかけを継続するとともに、子ども会未加入の子ども達も事業に参加し、異年齢集団を通じた体験により子ども会活動の良さを体験できる多様な活動内容の充実を図る。 ○時代に対応する組織運営について助言を行うとともに、研修等を通じた育成員の養成を図る。 ○学校教育をはじめ、各関係機関団体との連携による事業展開を図る。								

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年表彰	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年表彰事業						
事業の目的・概要	青少年（個人、団体）を対象に、青少年活動、社会活動及び家庭生活等において他の模範となる者を表彰する。	事業年度	開始		終了		
			平成19年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			36	46	58	39	39
前年度の課題	○個人、団体の両面から広く該当者を発掘し、推薦してもらう必要がある。						
当該年度の標目	○ふるさとの意識を高める各種リーダーの養成						
事業の実施状況	○富良野市青少年表彰式 ・ 11月23日開催 文化会館大会議室 ・ 被表彰者 1団体・1個人 ○表彰基準 ・ 個人 概ね30歳までの青少年で、次に掲げる活動を3年以上実践している者 ア) 日常生活において責任、勤勉又は奉仕などの徳性をもって活動し、明るい地域社会の公益向上に貢献した者 イ) 公共の福祉増進のための行為や努力した者 ウ) 生産性の向上や職場環境の改善などに貢献した者 エ) 地場産業の振興に貢献した者 オ) 青少年団体の指導又は育成に貢献した者 ・ 団体 文化、教養、体育又は奉仕活動を目的として概ね30歳までの青少年で構成されている団体で、堅実な活動を常時又は定期的に3年以上継続して行い、それぞれの活動の成果が著しく他の青少年の模範となるもの。						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○活動が顕著な青少年（個人・団体）を表彰し、他の青少年の模範や励みとなっている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
今後組み	今後の課題						
	○他の模範となる個人や団体の該当者を幅広く発掘し、推薦してもらう必要がある。						
	改善策						
	○様々な機会や広報を通して、青少年表彰制度について広く市民に理解してもらう。 ○各関係機関・団体及び町内会や市民に対して広く該当者の推薦を募る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青少年補導センター運営事業						
事業の目的・概要	青少年が心身ともに健康で調和のとれた発達ができるよう、市民や関係機関・団体との連携により、青少年の健全育成を主眼とした非行の未然防止に努める。 ◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱	事業年度	開始		終了		
			昭和50年度		継続		
事業の目的・概要	◇補導員 市内小・中・高校の生徒指導担当教諭及び関係団体の推薦により教育委員会が委嘱	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			173	153	256	98	149
前年度の課題	○子ども達の溜まり場となりやすい市内の「商業施設」等を重点的に月3回程度巡回するとともに引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。						
当該年度の目標	○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備						
事業の実施状況	○補導員数 32名 委嘱 ○街頭補導(富良野地区) ・富良野地区31回、山部地区1回 延従事者91名(うち山部地区2名) ○補導員会議(兼研修会) ・5月16日開催 24名出席 文化会館 ○広域補導(旭川地区広域補導連絡協議会) ・合同補導...北海へそ祭り祭典補導(富良野市) 4名(うち連絡協議会より2名) ・合同補導...買物公園街頭補導2回(旭川市) 富良野市より延2名参加 ・列車添乗補導...2回実施(富良野～幾寅間) 従事者延6名(うち連絡協議会より2名) ・旭川地区広域補導連絡協議会研修会 7/9 1名参加 ・旭川地区広域補導連絡協議会実務担当者会議 2/19 1名参加						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度		B	B	B	B	B
	効果度		B	B	B	B	B
達成度・効果度の検証							
○街頭補導の実施により、非行の未然防止につながっている。 ○商業施設や娯楽施設などの協力により施設内パトロールを実施。							
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○子ども達のたまり場となりやすい市内の商業施設や娯楽施設、公園等を重点的に月3回程度巡回するとともに、引き続き施設管理者や関係機関団体との情報交換等連携をとりながら、青少年の非行防止に努める必要がある。 ○少年補導員連絡協議会や富良野警察署との連携。						
	改 善 策						
○学校、家庭、関係機関団体、施設管理者等とのネットワーク化を推進し、情報交換や連携を密にしながら青少年の健全育成を推進する。							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	放課後子ども教室推進事業						
事業の目的・概要	放課後の子ども達の安全、安心な居場所を設け、子ども達に文化・スポーツ活動等の体験を通じて、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設	事業年度	開始		終了		
			平成20年度		継続		
事業の目的・概要	○平成20年度 山部小学校で新規開設 ○平成22年度 樹海小学校で新規開設 ○平成23年度 布礼別小学校で新規開設 ○平成25年度 布部小学校で新規開設	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			4,161	6,002	6,146	6,293	5,567
前年度の課題	○引き続き児童館が設置されていない地区での開設に向けて検討が必要である。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○豊かな心と社会性を身につける学習機会の充実 ○スポーツ、文化、ボランティアなどの活動への支援と参加の促進						
事業の実施状況	○山部地区放課後子ども教室 ≪会場:山部小学校≫ ・登録児童数 51名 (H25年度 64名) ・開催日数 196日 (H25年度 196日) ・延 4,235名出席 (H25年度 4,504名) ・教育活動サポーター 延392名 ○東山地区放課後子ども教室 ≪会場:樹海小学校≫ ・登録児童数 39名 (H25年度 39名) ・開催日数 169日 (H25年度 177日) ・延 4,160名出席 (H25年度 4,926名) ・教育活動サポーター 延338名 ○布礼別地区放課後子ども教室 ≪会場:布礼別小学校≫ ・登録児童数 20名 (H25年度 14名) ・開催日数 41日 (H25年度 40日) ・延 621名出席 (H25年度 527名) ・教育活動サポーター 延90名 ○布部地区放課後子ども教室 ≪会場:布部小中学校≫ ・登録児童数 11名 (H25年度 11名) ・開催日数152日 (H25年度 193日) ・延 1,259名出席 (H25年度 1,503名) ・教育活動サポーター 延154名						
評価	達成度・効果度の検証						
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○引き続き児童館が設置されていない地区での新規開設に向けての検討が必要である。 ○児童館、学童保育センターとの連携を検討する。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○児童館あるいは放課後子ども教室が未設置の麓郷地区、鳥沼地区における開設について、引き続き検討する。 ○児童センター、学童保育センターの事務を平成27年度に教育委員会に移管する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	学社融合推進事業						
事業の目的・概要	学校・家庭・地域社会の教育力を結びつけ、富良野市の教育の充実と活性化を目指す「学社融合」を積極的に推進し、ゆとりと潤いのある学習社会の実現を図るとともに、平成23年度より学校支援地域本部事業機能を取り込んで、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援していく。	事業年度	開始	終了			
			平成11年度 (学校支援は平成20年度～)	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			322	441	356	243	282
前年度の課題	○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへのより多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
当該年度の目標	○地域の教育資源を生かした様々な学習機会の充実 ○家庭、地域社会、関係団体及び学校とのネットワークの整備 ○学習活動を支援するための情報提供や指導、相談体制の整備						
事業の実施状況	○富良野市学社融合推進委員会 ・推進委員 22名委嘱(教頭会から推薦の幹事2名含む) ・市内小中学校における実践事例 197 事例 ・推進委員会開催 2回(8/22、2/26) ○学社融合研修会(講演会) ・「地域に開かれた教育力」 11/26 78名 会場:文化会館 ○学校支援ボランティアの登録数 276名 (男性87名、女性189名) ①家庭科補助10名 ②体育補助83名 ③読み聞かせ96名 ④農園手伝い7名 ⑤環境整備19名 ⑥自然科学・歴史6名 ⑦食育5名 ⑧パソコン3名 ⑨文学・文化7名 ⑩学校行事支援10名 ⑪登下校時等の安全指導35名 ⑫その他56名 ※希望分野が複数の登録者あり						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○学校・家庭・地域社会が一体となり、地域の教育活動を推進している。
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今後の課題 ○学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアへ、より多くの登録を進めるとともに、地域の教育資源をより一層有効に活用する必要がある。						
	改善策 ○活動内容の広報活動を行うとともに、学校との情報交換等を行いながら学校支援ボランティアの登録分野の一層の活用促進と地域の教育資源の整備充実を図り、地域の教育力の向上を目指す。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	青少年教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	青年活動活性化事業（青年塾）						
事業の目的・概要	平成23年度に実施したアンケート調査結果（20～39歳対象）から、①出会い・交流の場 ②まちの活性化 ③ボランティア活動 ④休日・余暇活動に関して問題意識があり、同世代の交流を強く求めていることが明らかになった。 このため、青年活動（集団づくり）の活性化を図るとともに、様々な学習の機会を通し、青年集団をリードする人材育成を図る。	事業年度	開始		終了		
			平成24年度		継続		
前年度の課題	○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決に向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	—	38	48	137
当該年度の目標	○青年の出会いと交流の場(ふらの青年塾)を引き続き開設し、自己実現を行うための課題解決に向けた学習・体験活動や広域的な交流を行う。 ○広報等を活用した活動内容の周知						
事業の実施状況	○活動実績(塾生46名 男性34名 女性12名) ・オリエンテーション 4/25 ・JUKE-Café 2回(ハンドメイドソーセージ、ディキャンプ) ・ミニ運動会 7/5 ・フラノビ・アモール運営協力(4回) 7/25～8/15 ・北海へそ祭り参加 7/29 ・富良野へそコン協力 12/6 ・サンタの宅急便 12/24 ・ふらのみつけ(ふらの再発見) 広報ふらのに記事掲載(平成26年1月号～12月号) ・富良野沿線青年との交流(広域教育圏事業により実施) ・他市(芦別市)青年団体との相互交流 ・全体会議 5回(10/30、11/27、1/20、2/20、3/20) ・その他班会議、打ち合わせ 随時 ・スポーツ交流 2/21 ・成人式運営協力 1/11 ・ワインぶどう祭り出店協力 9/7 ・富良野サンタラン協力 2/1						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	—	—	B	B	B	達成度・効果度の検証 ○塾生同士(年齢や業種を超えた)の出会いと交流の場の設定や活動に係る情報提供を行なった。 ○地域イベントへの参加と企画運営に携わり、活動の輪を拡充した。 ○塾生と富良野沿線在住の青年層との体験(学習)活動を通じた交流を行った。
今後の取り組み	今後の課題 ○さらなる塾生間の交流を進めるとともに、他団体等との交流や課題解決やスキルアップに向けた学習機会の提供が引き続き必要である。 ○各種イベントやボランティア活動等への参加の理解を深めるとともに、企画事業への積極的参加が必要である。 ○活動内容の周知を広く行う必要がある。						
	改善策 ○定例全体会議等を通じた情報交換・情報共有を行い親睦を深めるとともに、他青年活動団体等との交流を行う。 ○外部講師を含めた各種学習機会の充実を図るとともに、企画事業への積極的な参加を促す。 ○地域活動への参加及び協力の推進。 ○様々なメディアを利用した活動内容に係る広報活動を積極的に行う。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	成人教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの市民講座事業						
事業の目的・概要	○多様化する学習要求に対応した講座や社会的課題に関する教室等を開設する ○中央公民館、山部公民館、東山公民館の講座を連携して、「ふらの市民講座」として開設	事業年度	開 始		終 了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		1,030	896	829	729	799	
前年度の課題	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない講座を開設している。市民生活の視点から必要とされる現代的課題や地域課題といった市民の必要課題についての多様な学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
当該年度の標目	○現代的課題や地域課題などの解決に向けた学習機会の充実と提供						
事業の実施状況	○ふらの市民講座 (32講座 全93回 延1,264名参加) 中央公民館 ・子ども対象～ 4講座 全13回 延153名 ・成人対象～ 14講座 全32回 延458名 ・家庭教育(親子対象)～ 1講座 全4回 延 46名 ・女性対象講座～ 1講座 全12回 延101名 ・自主企画講座～ 4講座 全16回 延322名 山部公民館・生涯学習センター ・成人対象～ 6講座 全11回 延101名 ・全世代対象～ 1講座 全3回 延 67名 東山公民館 ・成人対象～ 1講座 全2回 延 16名						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	B	
達成度・効果度の検証							
	○講座終了後にアンケートを実施し、学習ニーズの把握に努めている。学習した成果を地域で生かすことにより地域の教育力の向上に寄与している。						
今後組み	今 後 の 課 題						
	○多様化する学習ニーズに応えるとともに、趣味に片寄らない市民生活の上で必要とされる現代的課題や地域・行政課題といった、市民の必要課題についての学習機会の提供について引き続き検討していく必要がある。						
	改 善 策						
	○市民の学習ニーズ及び現代的課題や地域課題を的確に把握し、関係部署・機関・団体等との連携をしながら、より豊かで多様性に富んだ講座を企画する。 ・現代的課題～社会生活を送る上での様々な課題の中で、特に現代に生きる市民として学んでおくべき課題 ・地域課題～「まちづくり」、「家庭や地域の教育力」などに係る課題						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	高齢者教育	担当課	社会教育課				
事務事業名	ことぶき大学運営事業						
事業の目的・概要	○自らの健康に気を配り、喜びと生きがいのある人生観の確立と家庭及び社会における高齢者としての役割を認識して、これまでの豊富な経験と知識を社会に生かすとともに自らの生活向上に役立てる。 ○富良野校、山部校、東山校の3校が地域の実情に根ざした学習活動を展開している。	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
		951	808	1,012	982	1,012	
前年度の課題	○新入生の確保に様々な取組みを行っているが、入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析するとともに、引き続き学生の確保に努める必要がある。						
当該年度の目標	○高齢者自身が学びあえる自主的な学習活動の推進 ○趣味、文化活動などのグループ、サークルの育成 ○自主的に学習する意欲を高める学習環境の整備						
事業の実施状況	○講話、クラブ学習、教科別学習など年間30日程度の学習を行う ○3校合同学習の実施：講話、運動会、主張実践発表交流会等 ○在籍者数 本科 52名 大学院24名 研究科4名 計 80名 ・富良野校～学習日数30日 本科 34名 大学院14名 研究科4名 計 52名 (出席率86%) ・山部校～学習日数30日 本科 11名 大学院 9名 研究科0名 計 20名 (出席率86%) ・東山校～学習日数28日 本科 7名 大学院 1名 研究科0名 計 8名 (出席率75%)						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	○富良野校・山部校・東山校3校合同学習を行い、学習内容の統一と充実を図っている。教科学習では、専門的な講師陣による多様な学習活動を行っている。また、自主的な学習活動として、学年別研究を行っている。	
	効果度	B	B	B	B		
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○新入生の確保に様々な取組を行っているが入学生が減少傾向にあるので、その原因を分析するとともに、引き続き学生の確保に努める必要がある。						
今後取り組み	改 善 策						
	○ニーズを把握するために学生との話し合いを充実し、より魅力ある学習内容を検討する。 ○各メディアを利用した、ことぶき大学の活動の情報発信に努める。 ○公開学習日や学習内容の成果を発表する機会を通じ、ことぶき大学への理解を深めてもらう。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	富良野芸術文化事業協会事業						
事業の目的・概要	多くの市民に優れた舞台芸術及び芸術作品の鑑賞機会を提供し、地域の文化振興に役立てる。	事業年度	開 始		終 了		
			平成15年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
900	1,000		1,000	1,600	587		
前年度の課題	○様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を提供するとともに、地域に根ざした芸術文化の振興を必要がある。						
当該年度の目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供						
事業の実施状況	○鑑賞機会の提供 ・白A Japan Tour 2014 (富良野公演) 文化会館大ホール ・6月25日 18:30 開演 ・販売枚数 512枚 ・当日入場者数 469人						
評価						達成度・効果度の検証 ○市民の芸術に触れる機会を拡充し、文化意識の向上を図るため、より良い舞台芸術を低額で市民に提供するよう努力している。	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	B	B	B	B		B
	効果度	B	B	B	B	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○様々なジャンルの優れた芸術文化作品の鑑賞機会を市民に提供し意識の高揚と合わせて、地域に根ざした芸術文化の振興を図る必要がある。						
	改 善 策						
	○北海道文化財団や市内文化関係団体等との連携、情報交換、ニーズの把握等を行いながら事業展開を図る。 H27年度 が〜まるちよば 北海道 東南西北&へそ JACK2015 10月4日 15:00開演						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課					
事務事業名	子ども芸術鑑賞教室事業							
事業の目的・概要	児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を提供し、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。	事業年度	開 始		終 了			
			昭和48年度		継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
1,052	910		1,050	900	1,400			
前年度の課題	○鑑賞教室終了後に児童生徒に対するアンケート調査と学校の希望等を参考にしながら演目の決定をしているが、今後は地元演劇グループ(富良野GROUP)による鑑賞機会も含め、演目を決定する必要がある。							
当該年度の目標	○児童生徒を対象に舞台芸術の鑑賞機会を設け、情操教育と芸術文化の意識高揚を図る。							
事業の実施状況	○舞台芸術鑑賞(小・中学生) ・笑劇「ようこそパントマイムの世界へ」 9/1・2開催 会 場 文化会館大ホール 来場者 延1,463名(児童・生徒、教員、父母、ことぶき大学生) 公演団体 富良野塾OBユニット							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○優れた芸術に触れる機会を児童生徒に提供し、豊かな感性を育み、芸術文化の意識高揚に向け、学校と連携を図りながら事業を実施している。
	達成度		B	B	B	B	B	
	効果度		B	B	B	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	○鑑賞教室終了後に児童生徒に対するアンケート調査と学校の希望等を参考にしながら演目の決定をしているが、さまざまなジャンルの分野から演目を決定する必要がある。							
	改 善 策							
○演目について情報収集等を行うとともに、児童生徒のニーズ調査や学校側との協議を行い、鑑賞機会・内容の充実を図る。								
H27年度 スギテツ ※聴くだけでなく観て楽しいコンサートを展開するピアノ・バイオリンのデュオ 演目:クラシックを遊ぶ音楽実験室 9月16日(中学生) 9月17日(小学生)								

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	市民総合文化祭事業						
事業の目的・概要	○郷土芸術文化の成果を広く市民に発表する場を提供するとともに、一人一文化を奨励し文化意識の高揚に努め、文化団体の交流並びに文化の振興を図る。 ○富良野会場、布部会場、山部会場、東山会場の4会場で開催	事業年度	開始	終了			
			昭和41年度	継続			
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			472	462	465	311	309
前年度の課題	○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
当該年度の目標	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○地域の文化活動を推進する文化団体との連携、協力の促進						
事業の実施状況	○第49回市民総合文化祭 ・富良野会場 11/1～3 延来場者 3,100名 文化会館 作品展示 1,165点 芸能発表480名 ・布部会場 10/25 延来場者 50名 布部会館 作品展示 150点 芸能発表 30名 ・山部会場 11/1～3 延来場者 1,032名 生涯学習センター・山部福祉センター 作品展示 1,053点 芸能発表 45名 ・東山会場 11/2～3 延来場者 500名 東山公民館 作品展示 364点 芸能発表105名						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○市民の芸術文化の発表の場を提供し、文化団体間の交流や市民の文化意識の高揚に繋がっている。 ○各会場ではそれぞれ地域性を生かした文化祭を開催し地域文化の振興につながっている。
	効果度	B	B	B	B	B	
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○菊花展への出品者を増やす必要がある。 ○若い世代の参加を促すとともに鑑賞機会の充実を図る。 ○文化団体への加入促進を促し、後継者の育成を図る。						
	改 善 策 ○菊づくり講習会を開催し、菊づくりへの理解を深めるとともに愛好者の増加を図る。 ○若い世代の市民が芸術文化に親しむ機会を拡充する。 ○生涯学習の成果を発表する場であり、地域の芸術文化に親しむ機会であることを広く市民に周知し、芸能発表・作品展示とともに多くの方が参加されるよう努めるとともに、市民の文化団体活動への理解を深める機会とする。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	ふらの演劇祭事業						
事業の目的・概要	開庁100年を機に次代に受け継ぐ事業として、過去から未来を学ぶ『演劇』を継続して実施している。 「演劇のまち”ふらの”」をめざし、市民、小中学生による演劇の発表の場として開催する。	事業年度	開始		終了		
			平成16年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			2,000	1,400	1,900	1,600	1,600
前年度の課題	○希望する学校が参加しているが、数多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
当該年度の標目	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○演劇祭を通し、文化芸術に親しむ心と豊かな感性を育てる						
事業の実施状況	○第12回ふらの演劇祭 (10/11~13開催) 10/11 来場者 延755名 ・布部小中学校「じゃっかんひょうたん島事件」 出演 13名 ・中富良野中学校3年生「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」 出演 43名 ・麓郷中学校「黒衣の天使」 出演 7名 10/12 来場者 延562名 ・扇山小学校4年生「桃太郎～真の正義とは～」 出演 26名 ・東小学校4年生「明日が消えた日」 出演 47名 10/13 来場者 223名 ・市民創作劇「おうちに帰ろう」						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度		B	B	B	B	B
	効果度		B	A	A	A	A
達成度・効果度の検証							
	○市民に演劇祭が広く認知されてきており、毎年参加する学校では演劇力の向上はもとよりコミュニケーション能力の向上が見られ、その演技が観客の感動を呼んでいる。						
今後取り組み	今後の課題						
	○希望する学校が参加しているが、より多くの学校が参加できるような体制が望ましい。 ○学校で演劇に取り組む十分な時間数の確保が困難になってきている。						
	改善策						
	○今後も継続して「演劇のまち“ふらの”」をめざし、継続して事業推進・振興を図る。 ○演劇指導を行っているふらの塾OBと小中学校教諭との連携を図りながら事業推進を図る。 ○演劇指導に係る事業時間の確保について、学校側で検討してもらう。 ○事業PRの充実を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	芸術文化	担当課	社会教育課				
事務事業名	舞台塾ふらの事業						
事業の目的・概要	舞台芸術の視野の拡大や人材の育成、幅広いネットワークの形成を促進するため、近隣市町村の関係団体と連携し、「舞台塾ふらの事業」を開催する。	事業年度	開始		終了		
			平成15年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	
前年度の課題	○北海道の負担金が年々削減傾向にあり、北海道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する。						
当該年度の標目	○文化活動への参加促進と自主的な文化活動の支援 ○芸術文化鑑賞機会の充実と文化活動に関する市民への情報提供 ○演劇を通じた市民の文化に触れあう機会の創出 ○文化活動の指導者養成のための研修機会の推進						
事業の実施状況	○演劇創造活動事業 ・富良野塾OB舞台創作事業 9/15～10/24 参加者数 延120名 富良野演劇工場 ○演劇に親しむ機会づくり事業 ・富良野塾OBユニット公演2014「みずのかげら」 10/25～11/12 来場者数 延1,268名 上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村 ○次代を担う人づくり事業 ・演劇リハビリテーション 9/17 寿光園 60名(幼稚園児) ・舞台芸術と演劇ワークショップ 3/9～10 富良野演劇工場 参加人数 延40名						
評価						達成度・効果度の検証 ○舞台芸術への理解を深める機会となっており、近隣市町村の舞台芸術に対する底辺を広げている。 ○実行委員会構成市町村(北海道、富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村)からの事業実施の期待度は大きい。	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	B	B	B	B		B
	効果度	B	B	A	A	A	
今後の取り組み	今後の課題 ○北海道の負担金が年々削減傾向にあり、北海道の事業継続の決定が本事業の今後を左右する						
	改善策						
	○各種補助金の活用や事業内容の検討を行うとともに、自主財源(チケット収入)の確保の充実を図る。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ環境の整備						
事業の目的・概要	いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる環境の整備を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継 続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
5,612	4,882		4,104	4,807	6,967		
前年度の課題	○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。						
当該年度の目標	○四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供 ○さまざまな媒体を活用した効果的なスポーツ情報の提供						
事業の実施状況	1) 市民水泳記録会 (富良野水泳協会委託事業) 12月7日開催 会場「ふらっと」 62名参加 (女子34・男子28) 【園児2・小学生58・中学生0・一般2】 2) 学校施設開放事業 市内小中学校12校開放(東小学校屋体改築工事につきH26.11から開放) 開放日 延1,284日、利用者数 延20,198名、利用団体延 1,621団体 3) NPO法人ふらの体育協会補助 ふらの体育協会が主催するスポーツ活動等の支援 (体育協会自主事業) 4) 少年野球国際交流事業 海外の少年野球チームとの交流を通じて異文化の理解促進、国際交流を図り、併せて野球技術の向上を図るため、本年度は初めて台湾新北市へ富良野選抜選手団を派遣した。 【東中6名・西中6名・樹海中1名・麓郷中1名・山部中2名・団長1名・指導者3名 計20名】 5月6～10日の4泊5日。内2泊はホームステイ実施 (台湾新北市新泰國民中学校保護者受入) ・富良野選抜8-6新北市福榮 ・富良野選抜8-4新北市新泰B ・富良野選抜5-2新北市汐止 ・富良野選抜0-6新北市二重 ・富良野選抜4-14新北市新泰A						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	B	B	B	B	B	
今後組	今 後 の 課 題						
	○市民の健康維持増進を目的としたスポーツに関心を持つ中、対応すべくスポーツ推進体制強化並びに環境整備が必要。 ○NPO法人ふらの体育協会の体制強化及び自主活動並びにスポーツ推進活動が必要。 ○小中高校生生のスポーツ活動が盛んなことから、競技力向上を目的とした環境整備が必要。 ○引き続き、学校屋内運動場を整備し、学校施設開放事業の推進を図る。 ○少年野球国際交流事業における招待・派遣を隔年で実現できる体制づくり。						
今後組	改 善 策						
	○生涯スポーツの振興をNPO法人ふらの体育協会と連携強化し、いつでも、どこでも、だれでもが活動できる体制を図る。 ○小中高校生生のスポーツ活動促進、アスリート育成、各種競技における競技力向上に向けたスポーツ環境整備を図る。 ○少年野球国際交流事業における招待・派遣を隔年で実現できるよう今後も親交を深める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	人材及び団体育成						
事業の目的・概要	各スポーツ団体・サークルの活性化を図るために指導者等の人材育成と各団体の育成を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継 続				
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
828	828		826	951	987		
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市スポーツ推進委員とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。 						
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツ振興のためのスポーツ指導者及び団体の育成 ○地域づくりを目的とした総合型地域スポーツクラブの育成支援 						
事業の実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ推進委員活動事業費 市民の健康体力づくりを目的にスポーツ推進委員を各地区に配置し、生涯スポーツの推進を図る。軽スポーツ指導普及活動(フロアカーリング・キンボール)や各種競技会の協力支援を実施。(へそマラソン・障がい者スポーツ大会・全国高校選抜スキー大会・小学生スパードッジボール大会等) 2) 山部体育振興会運営補助 各種スポーツ大会・ビームライフル射撃体験会実施等 3) 東山体育振興会運営支援 各種スポーツ大会の実施・樹海駅伝大会実施等 4) 麓郷スポーツクラブ運営補助 各種スポーツ大会の実施・クロスカントリースキー講習会等の実施 5) 総合型地域スポーツクラブ活動支援 麓郷スポーツクラブ(H21年度設立)、北の峰スポーツクラブ「ふらぼ」(H22年度設立) 						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 <ul style="list-style-type: none"> ○地域スポーツ振興の促進を目的にスポーツ推進委員を配置し、軽スポーツの指導普及活動を推進している。 ○山部、東山、麓郷地区毎で各種スポーツ大会が活発に開催されており、市民の体力増進が図られている。 ○地域でのフロアカーリング愛好者が年々徐々に増え、本年、フロアカーリング協会が設立され、市民の健康増進が図られてきている。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	B	B	B	B	A	
今後組の取組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野市スポーツ推進委員とNPO法人ふらの体育協会との連携強化により生涯スポーツの推進を図る必要がある。 ○総合型地域スポーツクラブ並びに各地区体育振興会の活動支援を推進し、地域住民の体力増進、さらには、スポーツを通じた地域づくりの推進が必要。 ○各種団体の交流や連携により、各地区の指導者の育成を推進し、スポーツ活動等の活性化を図る必要がある。 						
	改 善 策						
<ul style="list-style-type: none"> ○各種団体や各地域の主体的なスポーツ活動を活性化するため、NPO法人ふらの体育協会と富良野市スポーツ推進委員と連携をとりつつ、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツに親しむことができる体制づくりを推進する。 ○総合型地域スポーツクラブ及び地域体育振興会等の育成充実を図るとともに、リーダー及び指導者の育成を図る。 							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	スポーツ施設の整備及び管理運営						
事業の目的・概要	指定管理者等との連携によるスポーツ施設管理運営を推進する。	事業年度	開始	終了			
			継続				
	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
71,953		68,394	65,238	63,091	66,555		
前年度の課題	<p>○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市と各指定管理者（NPO法人ふらの体育協会、有料パークゴルフ場指定管理者）と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。</p> <p>○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場している中、競技力向上に向けた屋外スポーツ施設の施設整備の充実を図る必要がある。</p>						
当該年度の目標	○市民ニーズに対応するための民間活力の活用と各種団体との連携による事業の展開						
事業の実施状況	<p>1) 体育施設管理運営 富良野市スポーツ施設指定管理（NPO法人ふらの体育協会） 屋外水泳プール管理運営（山部・東山） 朝日ヶ丘運動公園広場クロスカントリーコース整備委託（富良野スキー連盟）</p> <p>2) 体育施設維持管理整備事業 スポーツセンター樹木剪定・伐採（欧州アカマツの木22本） スポーツセンター高圧受変電設備改修工事等（キュービクル設置） スポーツ施設管理用機械購入（乗用草刈機附属エアリングアレーター購入） 市民野球場芝生用表層土(78㎡)購入 市民野球場フェールライン支柱塗装修繕工事 市民野球場メインスタンド各所雨水侵入修繕工事 市民野球場1塁側タグアウト床改修工事 山部・東山屋外水泳プール躯体修繕</p> <p>3) 有料パークゴルフ場運営管理 ・金満緑地公園パークゴルフ場指定管理（㈱シー・エス・ティー富良野営業所） ・東山パークゴルフ場指定管理（公益社団法人富良野市シルバー人材センター） ・山部自然公園太陽の里パークゴルフ場指定管理（山部商業協同組合）※所管：山部支所</p>						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○各施設の指定管理者により、施設利用に伴う安全性や施設運営の推進、更に施設利用者、市民サービスの向上が図られている。 ○市民野球場の芝生育成に努め、良芝の再生化が図られた。
	達成度	B	B	B	B	B	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後組の取組み	今後の課題						
	<p>○適正な施設管理の実施、かつ安全に施設利用ができるよう、体育施設設置者である富良野市とNPO法人ふらの体育協会並びに各指定管理者と連携を図り、体育施設を整備する必要がある。</p> <p>○屋外スポーツ施設における芝生の再生化を順次、進捗していく必要がある。</p> <p>○青少年のスポーツ活動は年々盛んになり、全道・全国大会へと出場している中、競技力向上に向けた屋外スポーツ施設の施設整備の充実を図る必要がある。</p>						
	改善策						
<p>○体育施設の計画的な施設整備を図るため、NPO法人ふらの体育協会や各施設の指定管理者と連携を図り推進する。</p> <p>○第5次富良野市総合計画におけるスポーツ施設整備事業の推進を図る。</p>							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課				
事務事業名	競技スポーツの育成						
事業の目的・概要	幼児から高齢者まで自ら楽しむ「実践スポーツ」、見て楽しむ「応援するスポーツ」、ボランティアで楽しむ「協力するスポーツ」を実践し、それぞれのライフステージにおいて競技スポーツの育成振興を図る。	事業年度	開始		終了		
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			8,800	6,000	5,624	4,919	4,995
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○競技大会公認施設の維持管理の推進。 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの養成確保の推進。 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。 						
当該年度の目標	○四季を通じて、いつでも、どこでも、だれでもがスポーツレクリエーション活動のできる機会の提供						
事業の実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1) 道知事・上川教育局長・市長杯第43回麓郷クロスカントリー大会 平成27年2月8日(日) 麓郷クロスカントリーコース 参加者132名 2) 第27回セルジュラング杯小学生ジャイアントスラローム競技大会 平成27年2月21日(土) 富良野スキー場北の峰ゾーン 参加者68名 3) 第16回富良野市長杯スーパージャイアントスラローム大会 平成27年3月11日(水)～12日(木) 富良野スキー場富良野ゾーン エントリー数230名 ※暴風雪(雨)による倒木により安全なリフト運行できないため競技中止 4) ジュニアスノーフェスティバル 平成27年2月14日(日) 空知川河川運動広場 参加者48名 5) 第27回全国高等学校選抜スキー大会(アルペン種目) 平成27年3月12日(木)～15日(日) 富良野スキー場富良野ゾーン 参加者249名(延707名) 6) 第34回道新カップ北海道小学生バレーボール道北大大会 平成26年11月8日(土)～9日(日) 富良野スポーツセンター外 31チーム(男子6・女子16・混合9) 						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	A	A	A	A		○富良野市の地域特性を活かした大会の開催と誘致により継続的な大会開催を実施しており、地域活性化も図られている。全国高等学校選抜スキー大会開催は、富良野市開催11回目であり、「スキーのまちふらの」を実現している。
効果度	A	A	A	A	A		
今後組み	今 後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○競技大会公認施設の継続公認並びに維持管理の推進。 ○競技大会開催に伴う、競技役員等ボランティアスタッフの育成確保の推進。 ○各種競技の選手育成強化と連動した各種競技大会開催の推進、並びに各種競技の指導者育成推進。 						
今後組み	改 善 策						
	<ul style="list-style-type: none"> ○各種公認競技大会開催に伴う公認競技場の公認継続。 ○各種競技会開催に伴い、NPO法人ふらの体育協会の体制強化。(加盟競技団体の協力) 						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課					
事務事業名	アスリート育成派遣事業							
事業の目的・概要	子ども達のスポーツ活動が盛んとなるに依り、全道、全国、世界（国際）大会へ出場する機会が増え、市民に夢と感動を与えるとともに本市の大きな財産となっている。このため、将来のアスリートを育成するために大会派遣費の一部を補助する。	事業年度	開始		終了			
			平成23年度		継続			
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
			—	3,628	2,199	3,036	2,966	
前年度の課題	○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、競技力向上を目的としたアスリート育成派遣等スポーツ競技の環境整備が必要。							
当該年度の目標	○全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し、派遣費の一部を補助し、将来のアスリートを育成する。							
事業の実施状況	○全道大会 4件							
	①ジュニアオリンピック陸上競技大会北海道選手選考会/中学生 ②北海道卓球選手権大会兼全日本予選会/中学生 ③道新杯北海道中学選抜卓球大会(団体戦)兼全国中学選抜予選会/中学生 ④全日本少年軟式野球北海道大会/中学生 ○全国大会 11件 ①全国高等学校少林寺拳法大会/高校生 ②全国中学生少林寺拳法大会/中学生 ③少林寺拳法全国大会in埼玉/小・中学生 ④サントリーカップ全国小学生ラグビー選手権大会/小学生 ⑤JOCジュニアオリンピックカップ 2015全日本ジュニアスキー選手権兼全日本中学生選抜スキー大会（ノルディック）/中・高校生（2件） ⑥全日本スキー選手権大会（アルペン技術系・クロスカントリー）/高校生（2件） ⑦FISフューリストカップジャパンシリーズ2015（アルペン系）/高校生 ⑧2015全日本ジュニアスキー選手権大会（アルペン技術系）/高校生 ⑨2015JOCジュニアオリンピックカップ（アルペン技術系）/中・高校生 ○世界（国際）大会 3件 ①FISサルトレノイスターカップ2015（アルペン系）/カナダ/高校生 ②FISフューリストカップ中国Won Long大会（アルペン系）/中国/高校生 ③第3次アルペンジュニア遠征ジュニア世界選手権（アルペン系）/ノルウェー/高校生 ○選手強化事業 10件 ①全日本ジュニア強化指定選手アルペン女子合宿/高校生 ②アルペン競技alent発掘育成事業(toto)海外遠征/スイス・韓国/高校生（4件） ③全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会U17北海道代表遠征/高校生 ④北海道選抜選手 西日本選抜女子学童野球岡山大会/小学生 ⑤北海道選抜選手 今泉杯西日本友好学童軟式野球大会/小学生 ⑥北海道選抜選手 多賀グリーンカップ少年野球大会/小学生 ⑦北海道選抜選手 楽天イーグルス杯第13回東北中学校選抜野球大会/中学生							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○各種競技スポーツにおいて、全道、全国、世界（国際）大会等に出場する選手の増加がみられ、今後の競技力向上が期待される。
	達成度	—	A	A	A	A	A	
今後の取り組み			今 後 の 課 題					
	○小中高校生の各種競技スポーツ活動が盛んであり、全道・全国・世界（国際）大会等の競技会に参加する選手が数多くみられることから、今後も競技力向上及び経済的負担軽減を目的に本事業を継続していく必要がある。							
今後の取り組み			改 善 策					
	○全道、全国、世界（国際）大会に出場する子ども達に対し派遣費の一部を補助し、将来のアスリート及び指導者の育成を図る。							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	スポーツ振興	担当課	社会教育課、学校教育課				
事務事業名	子どもスキー技術向上支援事業						
事業の目的・概要	冬期間における小中学生の体力向上、スキー技術向上のため、富良野スキー場リフト搭乗無料券を配付するとともに、小中学校のスキー授業にインストラクターを派遣し、スキー技術の向上を支援する。	事業年度	開始		終了		
			平成23年度		継続		
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。 	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	14,732	7,304	7,320	7,106
前年度の課題	○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。						
当該年度の目標	○冬期間の小中学生の体力向上、スキー技術の向上を図る。						
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○富良野スキー場リフト搭乗無料券配付 <ul style="list-style-type: none"> ・配付～中学生 661名(対象者665名、配付率99.4%) ※H24年度より小学生のリフト無料化に伴い、中学生に対し富良野スキー場リフト搭乗無料券を配布する。 ○スキー授業インストラクター派遣(小中学校延62回派遣) <ul style="list-style-type: none"> ・富良野小10回、扇山小11回、東小12回、鳥沼小2回、布部小中3回、山部小3回、樹海小2回、麓郷小中3回、山部中4回、布礼別小中2回、西中7回、東中1回、樹海中2回 ・派遣インストラクター人数～延159名 						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	—	A	A	A	A	
	効果度	—	A	A	A	A	
今後の取り組み	今後 の 課 題						
	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学生にスキー場リフト搭乗無料券を配付し、冬のスポーツに親しむ機会を保障することで、冬期間における体力増進が図られているため、継続して実施する必要がある。 ○スキー授業へのインストラクター派遣によって、児童生徒が効果的にスキー技術を身につけることができているため、継続して実施する必要がある。 						
今後の取り組み	改 善 策						
	○冬期間における小中学生の体力向上とスキー技術向上を目的とした当事業を継続して実施する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	文化財保護啓蒙・普及活動						
事業の目的・概要	○市内外の文化財、史跡、博物館見学など文化財保護のための普及・啓発活動を推進する。 ○郷土に伝承された民俗芸能を保護し、その活動の奨励に努める。 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用を図る。	事業年度	開始		終了		
			昭和43年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			995	918	3,429	3,358	902
前年度の課題	○高齢化による、富良野蒸気機関車保存会の活動継続が困難になりつつある。 ○郷土芸能団体の後継者の育成。						
当該年度の目標	○文化財保護のための啓蒙、普及活動の推進 ○民俗芸能、文化財保護団体の育成、指導者の養成、後継者の確保 ○民俗芸能の活動拠点施設の効果的運用						
事業の実施状況	○博物館・史跡見学会の開催～ 8/7 道立近代美術館「徳川美術館展」、北海道鉄道技術館 他 参加46名 ○埋蔵文化財保護のための事前協議・所在確認調査～道宮農地整備事業扇山南地区 ○市指定文化財の保護～「富良野獅子舞」「北海道中央経緯度観測標」 「北海道大学第八農場富良野成墾記念碑」 「北海道大学第八農場山部成墾記念碑」 ○市費補助金～富良野獅子舞保存会180千円、富良野弥栄太鼓保存会344千円 山部獅子舞保存会72千円 ○市費交付金～富良野蒸気機関車保存会225千円 ○郷土芸能伝習館の効果的活用～指定管理者である富良野市郷土芸能伝習館運営委員会による円滑・効果的な管理運営 (利用団体:富良野弥栄太鼓保存会、富良野獅子舞保存会)						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度		B	B	B	B	B
	効果度		B	B	B	B	B
達成度・効果度の検証							
○郷土の歴史・文化の理解、文化財保護思想の普及・啓発に一定の成果をあげている。 ○活動拠点の確保や財政的支援により、民俗芸能や文化遺産の保護と活動の奨励に一定の効果をあげている。							
今後取り組み	今後の課題						
	○高齢化により、富良野蒸気機関車保存会の活動が平成27年度限りで終了する予定。 ○郷土芸能保存団体の後継者の育成。						
	改善策						
○蒸気機関車の維持管理を平成28年度から外部委託へ移行する。 ○郷土芸能保存団体の伝承活動と後継者育成に対する支援を継続する。 ○各団体の活動について情報発信に努める。							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化財保護	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	歴史的建造物魅力再発見事業（富良野市歴史的建造物調査事業）						
事業の目的・概要	○文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」採択により市費による平成23年度からの富良野市歴史的建造物調査事業費の振替事業。 ○市内の明治末期から昭和30年代の築50年以上経過した歴史的建築物を調査し、その実態を把握・研究することで文化財の基礎資料とするとともに普及啓発事業を実施する。	事業年度	開始		終了		
			平成25年度		平成26年度		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	—	—	(国費) 1,918	(国費) 584
前年度の課題	○市民の関心を高めることはできたが、歴史的建造物を今後のまちづくりに活用する機運の醸成には至っていない。						
当該年度の目標	○平成25年度に刊行した調査報告書「富良野の近代建築」に基づき、建造物の歴史的・文化的価値に対する理解を深めることを目的に、講演会・見学会・ガイドブックの発行等の普及啓発事業を実施する。						
事業の実施状況	○見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり（富良野市街地）」 8/31 参加者15名 講師：生涯学習センター職員 ○講演会「魅力再発見！ふらの建築探訪」12/6 参加者51名 講師：北海道開拓記念館小林孝二学芸員 他 ○出前講座（富良野観光アカデミー、建築士会道北ブロック協議会、富良野警察署） ○ガイドブック「ふらの歴史的建造物」の発行（A5判22頁3,000部）						
評価						達成度・効果度の検証	
	達成度	H22	H23	H24	H25	H26	○事業の実施やアンケート調査から、歴史的建造物に対する所有者や一般市民の興味関心の高まりが感じられた。 ○東山地区において古建築物のリノベーションの事例が誕生している。
効果度	—	—	—	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○文部科学省委託事業としての本事業は平成26年度で廃止となる。 ○歴史的建造物にふれることで本市の産業や文化の歴史についての理解を深め、市民が将来のまちづくりについて考える機会となるような取組みを、関係機関の協力を得ながら行っていくことが重要である。						
今後の取り組み	改 善 策						
	○市民はもとより本市を訪れる観光客に対しても、学習面、観光面で活用される資源として情報発信やPRをしていく。 ○博物館事業として、歴史的建造物を紹介する特別展、見学会、講演会を平成27年度に開催する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	博物館活動推進事業						
事業の目的・概要	本市の自然、歴史、文化についての調査研究、資料の収集展示保存、啓蒙普及等の博物館活動を推進する。	事業年度	開 始		終 了		
			昭和43年度		継続		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		1,168	1,220	1,191	1,190	1,196	
前年度の課題	<p>○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、博物館の魅力を発信していく必要がある。</p> <p>○美術アート系の講座は児童生徒、また一般参加者にも引き続き好評であるので、その学習内容の工夫・多様化を図り、新たな参加者の拡大を目指していく必要がある。</p>						
当該年度の目標	<p>○博物館活動(教育・普及)の推進</p> <p>○専門的な知識を有する人材の確保と養成</p>						
事業の実施状況	<p>○特別展・企画展等の開催(生涯学習センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回特別展「石黒誠写真展 雪虫」8/9～10/19 観覧者2,257名 ・富良野アートギャラリー絵画展「2014COLLECTION GALLERY」 vol.1 4/26～6/29 観覧者3,410名 vol.2 11/8～3/22 観覧者2,489名 <p>○絵画ワークショップ「アートを楽しもう！」全4回 6/7・11/8・1/8・2/7 延89名</p> <p>○小中学校等の学習支援・出前講座 (山部小・鳥沼小・樹海小・富良野小・扇山小・富良野西中・富良野東中・富良野市教育研究会社会科班研修)</p> <p>○インターンシップ受入れ(富良野高校1名 9/25・26)</p> <p>○「教員のための博物館の日in道北」出展 旭川市科学館 1/16</p> <p>○博物館資料の貸出 (東小・布礼別小・麓郷小・布部小・富良野小・北の峯ハイツ・北海道テレビ・富良野自然塾・ホテルナトゥールヴァルト富良野・アイリスケアセンターへ)</p>						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	A	A	<p>達成度・効果度の検証</p> <p>○郷土の自然、歴史、文化を理解する機会を提供することで、郷土意識の高揚につながっている。</p> <p>○美術に親しむ機会の提供により、美術をより身近なものとして楽しむことに効果をあげている。</p> <p>○とくに自然史の分野では、専門知識を有する人材の協力を得て事業を実施することができている。</p>
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	<p>○市民の学習ニーズの把握に努めるとともに、本市の財産である自然や文化財をテーマにした活動を展開する中で、地域資源としての価値を再認識できるような事業を展開していく必要がある。</p> <p>○美術アート系の講座は児童生徒、また一般参加者にも引き続き好評であるので、その学習内容の工夫・多様化を図り、新たな切り口で美術の楽しさを発信できる事業に取り組む必要がある。</p>						
	改 善 策						
	<p>○ふらの市民講座との連携を深める。</p> <p>○時代のニーズ、市民ニーズを汲み取った事業とともに、市民に伝えるべき普遍的なテーマも視野に事業展開を図る。</p> <p>○事業の事前PRはもとより、終了後の開催報告としてHP、広報紙や展示等で発信する。</p>						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	博物館	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	自然体験・環境学習事業						
事業の目的・概要	○自然や環境への理解を深める取り組みを推進する。 ○自然体験学習や森林を活用した事業を実施する。	事業年度	開始		終了		
			昭和51年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			博物館活動推進事業に包含				
前年度の課題	○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の希少な自然について、その現状を把握し将来的な保全・活用を図るため継続的に活動に取り組む必要がある。						
当該年度の目標	○自然環境についての理解を深めるため、自然観察会や自然とふれあう体験学習・環境学習を推進する。 ○身近な自然環境の調査をとおして資料やデータの蓄積を図るとともに、人と自然の関わり方、郷土愛の高揚、自然保護思想の啓蒙を図る。						
事業の実施状況	○自然観察会の開催 「富良野の自然に親しむ集い」全5回 延参加者131名 ・6/8水の中の生き物観察会 ・7/19ヘイケボタル観察会 ・8/12星空観察会 ・9/14秋の高山植物 ・3/15冬のバードウォッチング ○自然講演会の開催 「雪虫の世界」9/27 参加者31名 「夕張・芦別山系のエゾナキウサギ」3/28 参加者34名 ○ふらの森の教室の開設 展示、自然観察ガイド、木工クラフト ○遊々の森「太陽の里・ふれあいの森」自然観察路の活用と整備(上川南部森林管理署との協定) ○小中学校等の環境教育への指導・協力(鳥沼小1回、山部小7回、樹海小3回、富良野西中1回) ○自然環境保全活動 「オオハンゴンソウ抜き取り作戦in鳥沼」、「鳥沼公園ハンノキの林植樹」、 「山川草木を育てる集い植樹祭(清水山)」、「ヒメギフチョウ生息地(布礼別神社)の状況確認」、 「太陽の里ホテルの里づくり・ヘイケボタル生息調査」 ○調査プログラムの実施 「鳥沼・生き物調査隊」全3回 延参加者48人 「エゾナキウサギ生息分布調査(芦別岳)」						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	A	A	達成度・効果度の検証 ○郷土の身近な自然や森林の中で自然体験活動を実施することによって、市民の環境教育に大いに寄与している。 ○本市の自然環境を継続的に調査することで、過去との違いを認識し、将来に向けての資料の蓄積に資する。
効果度	A	A	A	A	A		
今後取り組み	今 後 の 課 題 ○自然体験活動を推進する人材の確保、育成に努める必要がある。 ○地域の希少な自然のみならず身近な自然環境についてもその現状を把握し、将来的な保全・活用を図るため継続的に調査活動に取り組む必要がある。						
	改 善 策 ○地域の身近な自然環境について理解を深めるため、HP・広報紙・ガイドブック・展示・講演会等の場において、調査で得られたデータを公開・活用していく。 ○自然観察や体験の楽しさを実感できるような事業展開を図り、より多くの子どもたちや市民が身の回りの自然について考える機会を持つ。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	山部菊の会補助金						
事業の目的・概要	○「山部菊花展」開催をはじめとする、山部菊の会活動に対する補助。 ○会は昭和56年3月発足以来、品種改良等の研究、研修見学会、小学生や市民を対象とした菊づくり指導等の活動を展開している。 ○後継者の育成を目指すとともに、地域に根付いた貴重な伝統文化としての「山部菊花展」の継承・発展を図り地域の活性化に資する。	事業年度	開 始		終 了		
			平成25年度		平成29年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
	—	—	—	300	300		
前年度の課題	○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承 ○生活様式や趣味の多様化による、菊づくりに対する興味の希薄さ ○栽培管理の手間の多さによる敬遠、園芸愛好家にも取り組みの広がりがみられない。						
当該年度の目標	○菊づくり体験講座の開催による、日本古来の伝統文化の啓蒙普及と後継者の育成確保 ○菊花展の安定的な継続開催 ○菊の会活動の支援						
事業の実施状況	○山部総合文化祭「第34回山部菊花展」の開催(11/1・2・3 出展数556点 ※前年644点) ○ふらの市民講座「菊づくり体験講座」の開催 全4回 参加者～一般市民2名、菊花展へ出品 ※山部菊の会の事業は以下のとおり ○山部総合文化祭での「山部菊花展」の開催・出品 ○ふらの市民講座の講師 ○山部小学校福助づくり指導、菊花展への出品 ○会員の青田見学会の開催 ○視察研修会 ○菊花資材の取りまとめ・配布 ○菊苗の配布						
評価						達成度・効果度の検証	
		H22	H23	H24	H25		H26
	達成度	—	—	—	B		B
	効果度	—	—	—	B	B	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○後継者の育成・確保による会の活性化と伝統技術の継承 ○生活様式や趣味の多様化による、菊づくりに対する興味の希薄さ ○栽培管理の手間の多さによる敬遠、園芸愛好家にも取り組みの広がりがみられない。						
	改 善 策						
	○地域の活性化と生涯学習の取り組みとして、引き続き活動の支援を継続する。 ○市民が親しみやすい菊づくり講座の工夫。 ○興味を示す園芸愛好家の市民もわずかながら存在することから、市民講座をとおして菊づくりのノウハウを継承していく。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	文化振興	担当課	生涯学習センター				
事務事業名	ふらの博物誌刊行事業						
事業の目的・概要	○本市の歴史・文化・自然に関する事象・史実を後世に引き継ぐため、博物学的見地から幅広く収集・執筆した冊子を刊行する。 ○郷土史編、戦争編、先史編、自然編の4部構成。全49話。	事業年度	開始		終了		
			平成26年度		平成26年度		
		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
		—	—	—	—	500	
前年度の課題	【新規点検・評価事業】						
当該年度の目標	○民衆の生活史の他、戦後の出来事や自然史に関する話題も盛り込み、親しみやすい読み物に主眼をおいた内容とする。 ○発行者である富良野市郷土研究会に、発行経費の2分の1を補助する。						
事業の実施状況	○発行者は富良野市郷土研究会、B6判384頁、販売価格1,000円 ○市費補助金 500,000円(財源:文化振興基金) ○初版発行 平成26年11月14日 500部 第二版発行 平成27年1月8日 200部 ○執筆者、庁内、市立富良野図書館、市内小中高校、沿線教育委員会等関係機関、道北地区博物館へ寄贈 ○一般販売の実施						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○ほぼ計画どおりの事業を実施することができた。 ○親しみやすい読み物で、本市の歴史・文化・自然について肩肘張らずに知ることができるものと思われる。
	達成度	—	—	—	—	A	
	効果度	—	—	—	—	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○本市の歴史を知っている古老が減少していくなか、史実の発掘と記録保存はますます重要性を増している。						
	改 善 策						
	○郷土史研究団体や自然関係団体等と連携をとりながら、継続的に史実や自然事象の記録保存に努める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館					
事務事業名	図書館運営管理事業							
事業の目的・概要	<p>【目的】図書館の維持管理と市民に対する読書活動等を通じた生涯学習の場の提供</p> <p>【概要】</p> <p>○図書館の運営 開館日・時間 火～金：10時～18時 土・日：9時～17時</p> <p>○図書館利用者団体等への施設貸出</p> <p>○図書館利用促進のためのイベント主催</p> <p>○インターネット利用端末の設置（2台）</p> <p>○図書館情報の提供</p>	事業年度	開始		終了			
			昭和47年度		継続			
前年度の課題	<p>○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展</p> <p>○情報化社会に対応する情報発信機能の充実</p> <p>○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営</p> <p>○ICT技術の活用による図書館情報提供の充実</p>	事業費(決算) (単位：千円)	H22	H23	H24	H25	H26	
			21,634	22,630	20,896	22,198	20,390	
当該年度の目標	<p>○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、チラシやラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。</p> <p>○図書館ボランティア制度の登録方法の見直しを図る。</p> <p>○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。</p>							
事業の実施状況	<p>○図書館の運営 開館日数：282日 登録人数：14,413人 貸出人数：32,675人 貸出冊数：157,415冊 図書館利用者団体会議 2回 図書館ボランティア 登録人数37人</p> <p>○利用状況 多目的ホール及びサークル室：296回 延3,681人 展示ホール：6回 57日 898人</p> <p>○図書館まつり 期間：10月5～25日 来場人数：8,994人</p> <p>○高圧区分開閉器及びケーブル取替工事</p> <p>○インターネット予約登録人数：102人</p>							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<p>今 後 の 課 題</p> <p>○図書館利用者団体、読書推進ボランティアの育成及び団体間連携の維持発展</p> <p>○情報化社会に対応する情報発信機能の充実</p> <p>○施設の適切な維持管理及び修繕改修による施設の管理運営</p>							
	<p>改 善 策</p> <p>○図書館利用者団体及び読書推進ボランティアの活動状況について、館内掲示や図書館ホームページ、チラシ、ラジオ広報等を活用して、地域住民への情報提供を行う。</p> <p>○図書館ホームページの内容等を検証し、利便性を向上させる。</p> <p>○計画的な施設修繕による、安全で快適な環境整備を行う。</p>							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館		担当課	図書館				
事務事業名	図書資料整備事業							
事業の目的・概要	【目的】 地域住民の生涯学習の基礎となる図書資料の収集・提供 【概要】 ○社会情勢・利用者ニーズ・地域特性に対応した新刊書・新聞雑誌等の選択と収集 ○視聴覚ライブラリー資料の収集 (富良野地区広域教育圏振興協議会)	事業年度	開始		終了			
			昭和47年度		継続			
	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26		
		6,300	6,035	6,582	5,588	5,562		
前年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 ○視聴覚ライブラリー事業の効率化 							
当該年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○富良野地区視聴覚教育協議会を廃止し富良野地区広域教育圏振興協議会が事業を継承する。 							
事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ○購入書籍：一般書2,075冊、児童書1,009冊、雑誌1,012冊、新聞8紙 ○利用者の学習及び調査研究のための参考図書や専門的資料の収集 ○地域の郷土資料及び行政資料の収集による、地域の特色ある知的財産の蓄積 ○視聴覚教材購入＝DVDソフト49本 ○富良野地区視聴覚教育協議会を平成26年9月30日付で解散し、10月1日から富良野地区広域教育圏振興協議会が事業継承 							
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証	
	達成度	B	B	B	B	B	○社会情勢・利用者ニーズを把握し、様々な図書情報を活用する中で、適切に新刊書を選択と収集を行っている。 ○視聴覚ライブラリーの利用数が2,886本と増加した。	
	効果度	A	B	B	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	<ul style="list-style-type: none"> ○新鮮で適切な資料構成の維持 ○沿線市町村を始めとする、他町村図書館との連携強化 ○利用者ニーズに適合した収集内容の再整理 							
	改 善 策							
	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズに的確に応えつつ、バランスの取れた図書資料の整備を図るため、適切な更新と除籍を進める。 ○新聞データベースの導入により、利用者の調査・研究活動をサポートする。 							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	読書活動推進事業						
事業の目的・概要	<p>【目的】市民の生涯学習の基礎となる図書資料及び図書情報の提供</p> <p>【概要】</p> <p>○図書資料情報の多面的な提供と積極的な貸出</p> <p>○相互貸借システムの活用による他図書館との連携貸出</p>	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			-	-	-	-	-
前年度の課題	<p>○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。</p> <p>○利用者が求める情報を図書や雑誌、電子資料やWebなどから探し出す「レファレンスサービス」の一層の充実。</p>						
当該年度の目標	<p>○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。</p> <p>○最新型MARC（コンピュータ処理可能な書誌情報）を導入し、情報提供サービスを充実させる。</p> <p>○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。</p>						
事業の実施状況	<p>○インターネット図書検索システム、館内テーマ展示、図書館だより、広報紙による情報提供</p> <p>○リクエスト数：3,974冊</p> <p>○相互貸借：他図書館からの借受849冊 他図書館への貸出309冊</p> <p>○録音図書：26本購入（所蔵数404本）</p> <p>○大活字本：16冊購入（所蔵数659冊）</p>						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	A	A	A	A	A	<p>達成度・効果度の検証</p> <p>○市民一人当たりの貸出冊数は、6.42冊と高い水準にあり、利用登録者数も14,413人と増加している。</p>
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	<p>今後の課題</p> <p>○社会の変化や利用者ニーズに対応した一層効果的な図書資料及び多様な図書情報の提供。</p>						
	<p>改善策</p> <p>○インターネットや専門誌など様々な媒体を活用し、図書資料情報を的確に把握することにより、利用者からのリクエストなど、生涯学習ニーズに必要な図書資料を提供する。</p> <p>○相互貸借システムの活用による、他図書館との連携貸出を促進する。</p>						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	図書館	担当課	図書館				
事務事業名	子どもの読書推進事業						
事業の目的・概要	【目的】 すべての子どもたちが読書に親しみ、いつでもどこでも読書できる環境づくり 【概要】 ○ブックスタート（乳児7ヶ月健診時） ○おはなし会 ○こどもの図書館まつり ○学校図書館支援 ○ブックフェスティバル	事業年度	開始		終了		
			昭和47年度		継続		
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	385	705	670	672
前年度の課題	○周産期からの読書啓蒙及び乳幼児からの読み聞かせ実践。 ○学校図書館の蔵書管理を適切に実施できるよう、データベース化を進める必要がある。 ○学校間の児童書の共有化を進め、図書不足を解消する必要がある。 ○「子どもの読書推進プラン」（平成22～26年度）の検証。						
当該年度の目標	○母子手帳交付時や出生届時に読書啓蒙小冊子を配布し、家庭における読み聞かせの啓蒙や図書館利用情報の提供等を推進する。ブックスタートの継続 ○ブックトラック事業の拡充による図書の共同利用の推進 ○団体貸出制度の拡充及び周知 ○第2次「子どもの読書推進プラン」（平成27年度から）の策定						
事業の実施状況	○ブックスタート：12回161名配布（ボランティア団体と図書館の共同実施） ○おはなし会：12回349名参加（ボランティア3団体の協力） ○えいごのおはなし会：9回232名参加（ボランティアとALTの協力） ○絵本読み聞かせ会：43回711名参加（おはなしの会「どんぐり」） ○子どもの図書館まつり：5月7～11日 来館者2,552名 実行委員会主催 ○学校図書館支援：ブックトラック事業 小学校9校303冊、中学校2校70冊、朝読セット1校150冊、団体貸出6,712冊、学校図書館環境改善事業1校（道立図書館事業） ○ブックフェスティバル：市内小学校8校2,592冊 ○ボランティア研修会：10月19日開催21名参加 ○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」（平成27～31年度）を策定						
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証
	達成度	A	A	A	A	A	
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題 ○周産期からの読書啓蒙及び乳幼児からの読み聞かせ実践。 ○学校図書館の蔵書管理方法など、環境改善の取組。 ○学校間の児童書の共有化を進め、図書不足を解消。						
	改 善 策 ○ブックスタートなど、家庭における読書活動の推進事業を継続する。 ○ブックトラック事業の拡充など、学校図書館環境の改善に向けた活動を継続する。 ○団体貸出制度の拡充及び周知を行う。 ○「子どもの読書推進プラン【第2次計画】」を推進する。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	安全安心な学校給食の提供						
事業の目的・概要	衛生管理の徹底を図るとともに、経年劣化した調理機器等の更新など施設設備の整備を促進し、食中毒の発生や異物混入の防止を図り、安全で安心な学校給食の提供に努めるとともに、給食の安定した供給を図る。	事業年度	開 始		終 了		
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			252,829	250,611	241,157	266,326	251,202
前年度の課題	○施設は各所に経年劣化が見られることから、今後とも継続して大型機械及び厨房調理機器、施設改修等の計画的な設備、機器の更新が必要である。						
当該年度の目標	○安全・安心な学校給食の推進 ○安定した給食の供給						
事業の実施状況	○富良野市・中富良野町・占冠村の小学校17校、中学校9校に年間195回を基準として、米飯週3回、パン・麺週1回の給食を提供 ○「学校給食衛生管理の基準」を遵守した学校給食の運営 ○学校給食献立委員会による献立内容の改善と協議(10回開催) ○調理員を対象に安全衛生管理指導の実施(年3回～各学期開始時、講師:栄養教諭) ○沿線調理員合同の衛生管理研修会実施(7/25、講師:富良野保健所) ○HPを活用した給食献立表及び使用食材産地の公表 ○球根皮剥室の稼働により土付き野菜の処理を外部委託からセンター内処理に移行 ○施設設備及び調理機器等の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 蒸気ボイラー改修工事 10,994,400円 ・ 食缶洗浄機高圧ポンプ交換修理 2,224,800円 ・ スチームコンベクションオープン用軟水器交換 172,800円 ・ 給食配送用コンテナ更新 2台 969,840円 						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	A	A	達成度・効果度の検証 ○厨房調理機器、給食供給用備品の計画的な更新及び改修により、継続して安全で安心な学校給食の提供が図られた。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後の取り組み	今 後 の 課 題						
	○施設は各所に経年劣化が見られ、大型機械及び厨房調理機器等も耐用年数を経過しており、突発的な故障により調理不可といった事態が懸念されることから、計画的な設備、機器の改修、更新が必要である。						
	改 善 策						
今後の取り組み	○安定した給食提供のため、施設設備、大型機器等の状態を把握し、計画的な更新を進める。						

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター					
事務事業名	「富良野ふるさと給食」の実施							
事業の目的・概要	地元でとれた旬の食材や特産品を子どもたちに伝え食べ物が身近になることで「地産地消」の意味や意義を学習し、食の大切さや食材の生産・加工・流通を学ぶ機会とする。 ・地場の食材 9割使用 ・学校農園野菜の活用 ・地産地消の啓発	事業年度	開 始		終 了			
			平成16年度		継続			
	事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26		
前年度の課題	○学校行事等を考慮し、これまでは10月に実施してきたが、多くの地場産野菜の収穫時期が5月から10月上旬であり、必要量も容易に確保できることから開催時期の精査が必要。							
当該年度の目標	○食の大切さや感謝する心を育む食育の推進 ○地産地消の推進							
事業の実施状況	○9月2日、10日、18日、26日実施(4日) ○沿線企業、農園等の協力により地元食材を確保 ○「給食だより」による地産地消の啓発 ○ふるさと給食特別号「ふるさと給食2014 ー地域の食材で心と体を育むー」発行 ○配送市町村理事者、議員、教育関係者等の給食試食会開催 ○食材提供者の給食試食会開催 ○終了後、学校へアンケート実施							
評価			H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証 ○開催時期を早めたことで、児童生徒が様々な地元産野菜を知り、地域農業への理解と地産地消の推進が図られた。
	達成度	A	A	A	A	A		
	効果度	A	A	A	A	A		
今後の取り組み	今 後 の 課 題							
	○学校行事等を考慮し、全ての学校において食することができる日程の確保。 ○多くの地場産野菜が使用できる日程の設定。 ○使用食材の確保と提供者の開拓。							
	改 善 策							
○協力いただける農家の情報を収集し、児童生徒が地域農業への理解を深め地産地消の意義を学ぶ機会として充実を図り、魅力ある「ふるさと給食」を実施する。 ○各校の行事予定等を把握し、実施日程を調整する。								

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター				
事務事業名	食に関する指導の推進						
事業の目的・概要	学校給食を「生きた教材」として活用し、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通して自らの健康管理ができるようにする。また、楽しい食事や給食活動を通じ豊かな心を育成する。 ・栄養教諭による食の指導 （配置校・未配置校）	事業年度	開始		終了		
			継続				
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26
			—	—	—	—	—
前年度の課題	○栄養教諭による食育指導は、配置校は全教室で行ったものの未配置校は指導依頼を受けた8校のみに留まっている。区域も広く学校数も多いことから効果的に指導が行える体制づくりが必要。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
当該年度の目標	○食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○「食べ残しゼロ運動」の推進						
事業の実施状況	○2名の栄養教諭による食の指導 ・配置校 富良野小学校 ～ 全学年全教室で食育授業を実施 富良野西中学校 ～ 家庭科、保健体育の時間を中心に全学年指導 ・未配置校 24校の内8校で指導 （扇山小、東小、布部小、布部中、鳥沼小、布礼別小、山部中、西中小） ○社会見学における食の指導（鳥沼小、中富良野小） ○年間指導計画作成及び給食だより発行 ○年間指導計画に基づく給食指導要領作成 ○献立委員会等との連携による献立の見直し実施 ○保護者向けの食の講話実施（山部小、布礼別小）						
評価			H22	H23	H24	H25	H26
	達成度	B	B	B	B	B	達成度・効果度の検証 ○未配置校へは、指導依頼があった全ての学校の要望に応え、児童生徒や保護者へ指導を行った。 ○養護教諭や給食担当教職員と連携し、各校において給食指導要領を活用により食の指導の推進につながった。
	効果度	A	A	A	A	A	
今後取り組み	今 後 の 課 題						
	○食育の重要性について周知させるとともに、特に未配置校においては栄養教諭の専門性を活かし、各学校の要望に沿った取り組みを進める必要がある。 ○各学校の養護教諭等と連携を図り、食べ残しゼロ運動を含め、今後も継続して食育指導を推進する必要がある。						
	改 善 策						
○担当区域が広大で学校数も多いことから、効果的な指導が行える体制に向けて管理栄養士を採用する。 ○学級担任、養護教諭、給食担当教職員と連携を図り、食に関する指導を推進する。 ○栄養教諭未配置校の食の指導について、学校からの指導依頼には随時対応していく。							

平成26年度 富良野市教育委員会事務事業点検・評価シート

評価項目	富良野学校給食センター	担当課	富良野学校給食センター																																						
事務事業名	学校給食費の徴収																																								
事業の目的・概要	給食費の徴収については、「児童手当」から天引きできる仕組みを活用するなど、給食費滞納の未然防止に努め、円滑な学校給食の運営を図る。	事業年度	開始	終了																																					
			継続																																						
事業の目的・概要		事業費(決算) (単位:千円)	H22	H23	H24	H25	H26																																		
			—	—	—	—	—																																		
前年度の課題	○高い収納率は維持しているが、未納世帯への回収については、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、児童手当からの天引き徴収等滞納の未然防止に努める必要がある。																																								
当該年度の目標	○給食費収納率の向上及び滞納額の圧縮																																								
事業の実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>調定額(円)</th> <th>収入済額(円)</th> <th>未収入額(円)</th> <th>収納率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度給食費</td> <td>148,493,085</td> <td>148,269,075</td> <td>224,010</td> <td>99.85</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内訳</td> <td>富良野</td> <td>114,646,185</td> <td>114,607,080</td> <td>39,105</td> <td>99.97</td> </tr> <tr> <td>中富良野</td> <td>27,562,295</td> <td>27,377,390</td> <td>184,905</td> <td>99.33</td> </tr> <tr> <td>占冠</td> <td>6,284,605</td> <td>6,284,605</td> <td>0</td> <td>100.00</td> </tr> <tr> <td>過年度給食費</td> <td>797,921</td> <td>385,744</td> <td>412,177</td> <td>48.34</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>149,291,006</td> <td>148,654,819</td> <td>636,187</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)	26年度給食費	148,493,085	148,269,075	224,010	99.85	内訳	富良野	114,646,185	114,607,080	39,105	99.97	中富良野	27,562,295	27,377,390	184,905	99.33	占冠	6,284,605	6,284,605	0	100.00	過年度給食費	797,921	385,744	412,177	48.34	合計	149,291,006	148,654,819	636,187	—
	区分	調定額(円)	収入済額(円)	未収入額(円)	収納率(%)																																				
26年度給食費	148,493,085	148,269,075	224,010	99.85																																					
内訳	富良野	114,646,185	114,607,080	39,105	99.97																																				
	中富良野	27,562,295	27,377,390	184,905	99.33																																				
	占冠	6,284,605	6,284,605	0	100.00																																				
過年度給食費	797,921	385,744	412,177	48.34																																					
合計	149,291,006	148,654,819	636,187	—																																					
「児童手当」からの天引き申出額 3件 120,000円																																									
評価		H22	H23	H24	H25	H26	達成度・効果度の検証																																		
	達成度	—	A	A	A	A		○学校と連携を図ることで未納防止につながり、高い徴収率が維持できた。 ○滞納分については、電話、文書での督促に加え、夜間に滞納家庭を訪問し、分割納付や児童手当からの引き去りによる徴収など滞納解消に努めた。																																	
今後の取り組み	今 後 の 課 題																																								
	○高い収納率は維持しているが、同一世帯が未納を繰り返す状況もあり、引き続き学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り、未納防止、滞納解消に向け対策を講じる必要がある。																																								
改 善 策																																									
○滞納者には定期的に督促事務を行うとともに、学校及び構成市町村の教育委員会と連携を図り家庭状況を把握し「児童手当」からの天引き徴収等滞納の未然防止に努める。																																									



IV 平成26年度 学校第三者評価

学校自己評価及び学校関係者評価並びに学校訪問等に基づき、各委員から出された項目に対する意見をまとめ、委員の意見に対し改善策を示した方が良いと思われる項目に対しては、教育委員会の改善方策を記載する。

なお、自己評価値は、評価基準を「4：実践が進み成果を上げている 3：実践が進んでいる 2：実践につとめている 1：努力を要する」の4段階とし、各学校において評価した自己評価値の全学校の平均値を記載している。

観	点	自己評価【平均】 ()は前年度
---	---	---------------------

≪評価領域：組織運営等の状況≫ <項目：学校の組織運営の状況>		
1	職員会議等が学校運営において有効に機能しているか	3. 9 (3.9)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を活かして質の高い提案になるように努めている。 ・議案は事前に校長に提出し、確認して会議に臨み有効に機能している。学校歴に従い議案を決め、計画的に実施している。 ・学校経営方針等が職員会議を通して学校運営に有効に機能している。 ・職員会議は学校教育法施行規則に定められている通り、校長の職務の円滑な執行に資することを目的として機能している。 ・校長の経営方針や重点目標等を具現化する場として、また、それらの共通理解を図る場として有効に機能している。 ・議題の一覧表が活用され、提案忘れなどの漏れがなく、事前に分掌ごとに提案事項の検討がなされていた。 ・議題の確認を1週間前から行い、各分掌、学年で十分に議論を重ねて提案されている。議題の事前配付が、スムーズな会議の運営に貢献している。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・議案の事前配布や事前確認などの工夫が見られます。今後も、継続した取り組みが必要です。 ・有効に機能し、教職員間の情報共有が適切に行われている。 	
2	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス管理が適切に行われているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業等の勤務管理を適切に行い、勤務時間縮減に取り組んでいる。 ・勤務時間管理や研修等の承認、サービスの管理等が適切に行われている。 ・休暇処理簿、旅行命令簿等の手続きをその都度処置するようにしている。サービス規律違反の実例を示すことなどで、教職員の意識を高めるように努めている。 ・動静が分かった時点ですぐに教頭に連絡・相談する体制が整っている。サービス管理に関しては、折に触れて資料を配付したり短信に書いたりして指導を繰り返している。 ・職員会議や打合せなどの機会を利用して管理職がサービス規律について細かく説明した結果、徐々に意識が変わってきた。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育への課題は年々増えてきている。そのような中で、教職員が多忙化してきているので、教職員の研修時間の確保に向けて、各学校は創意工夫していかなければならない。 ・学校訪問で管理職以外の教職員から聞くことはできなかったが、管理職による適切な指導助言が行われていると思われる。 	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：学校と設置者の連携の状況＞		
1	設置者の示す明確な教育方針等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか	3. 9 (3.9)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委から示された教育方針に基づいて年度の重点を設定し、様々な場面で職員に周知している。 ・教育目標の設定は市教委の方針や児童生徒の実態等に基づいて行われ、職員と共通理解を図り学校運営を行っている。 ・富良野市 ZERO 運動の理念を踏まえ、教育目標及び年度の重点等を設定し、「教育推進プラン」として分かりやすく示し学校運営を行っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校全体が富良野市 ZERO 運動の理念を踏まえ、教育目標及び年度の重点を設定し、学校運営が行われている点について、今後も、このことを重視し、評価、改善を加えながら、継続した取り組みを推進していく必要がある。 ・学校経営方針を明確に定め、教育目標として具体的に推進している。 	
2	学校と設置者が、児童生徒の状況や安全管理等に関する情報を適切に共有しているか	4. 0 (3.9)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全に関わる情報については、迅速に、適切に周知徹底している。 ・連携と情報の共有に努め、児童の状況、安全管理の情報は迅速に提供されてきた。 ・状況の的確な把握に努め、グループウェア等を活用し教育委員会や他校と情報を共有しながら適切に対応している。 ・校内の情報のもとより、子どもネットワーク会議等で得た地域の情報についても迅速な「報連相」に努めている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、思いもよらない児童生徒の事故や自然災害が発生しているため、各学校が連携しながら各学校の実態にあった「危機管理マニュアル」作成などを積極的に進めていく必要がある。 ・防犯教育の実態がわからなかった。 <p>【改善方策：全学校ではないが、登下校時の見守り活動、不審者への対応訓練、警察署員による防犯教室などを実施している】</p>	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：目標設定と自己評価の状況＞		
1	学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が具体的に設定されているか	3. 7 (3.6)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の学校評価の成果と課題を踏まえて学校改善プランを作成し、目標を具体的に設定し教育活動を進めている。 ・学校の教育目標の具現化に向け、中期目標と短期目標を具体的に設定し、その実現に努め、成果も上がってきている。 ・全国学力調査の結果分及び学校評価の結果を分析して学校改善プランを作成し、具体策を示して教育活動を推進している。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての小中学校が、富良野市 ZERO 運動の理念を踏まえ、望ましい形で推進されている。 ・全国学力・学習状況調査を適切に分析し、具体的方策を掲げて教育改善を図っている。 	
2	自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 7 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の結果や保護者アンケート等の分析により、各部会・各分掌で改善に向けた方策を検討し、具体的な改善策により次年度の計画に反映している。 ・2期に分けて全体を評価するほか、行事ごとに反省をすることにより、改善を加えられるように工夫している。 	

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・とても前向きに取り組んでおり、次年度に有効に活用されている。 ・児童生徒に対するアンケート、自己評価をもとに、学校運営の改善に生かされている。 	
3	外部アンケート等を実施し、自己評価を行う上での参考としているか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・児童・教職員のアンケート結果及び学校評議員からの意見を参考に、自己評価の信頼性を高めている。 ・1学期末と2学期末に自己評価と児童アンケートを行い、保護者アンケートを2学期末に実施した。 ・運動会と学校祭などの学校行事ごとに、保護者アンケートを行い、成果と課題、要望等の意見を求め、自己評価・関係者評価に生かしてきた。 ・学校評議員（学校関係者評価委員）や保護者によるアンケート結果を教職員で共有してから自己評価を行った。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に参考にされていると思う。 ・外部アンケートの内容や回数について各学校で違いがあるようだが、富良野市として統一できないか。 <p>【外部アンケートは、学校評価の資料とするために各学校における重点目標に沿った内容で実施しているため、市内統一とはなっていません】</p>	

<p>《評価領域：組織運営等の状況》</p> <p>＜項目：学校関係者評価の状況＞</p>		
1	学校関係者評価が自己評価の結果を踏まえて実施されているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者による評価により、自己評価結果の妥当性を確認している。 ・自己評価結果をもとに学校関係者評価会議を開催し、学校評価や本校との連携状況課題等について意見をいただいている。 ・自己評価や全国学力・学習状況調査結果をもとに学校関係者による評価を実施している。 ・学校関係者評価委員会を近隣の小学校とともに実施し、幅広い意見を聞いている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校においては、自己評価の結果を踏まえて学校関係者評価が実施されていることが、文面から伺える。 ・学校関係者評価等を提示説明し、学校運営改善に活用されている。 	
2	学校関係者評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度末に実施し、次年度の教育計画立案の参考にしている。 ・学校関係者による評価結果及び意見をもとに、具体的な学校改善に生かしている。 ・評価結果を真摯に受け止め、新たな教育活動を推進するなど、学校運営の改善に生かした。 ・学校が示した改善策について評価書をもとに意見をいただき、学校運営改善に反映させた。 ・運動会や学校祭などの学校行事に学校関係者評価委員の方々が多く来校されるので、生徒たちの育ちを公開でき、多くの意見をいただけることが改善に役立っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価のマンネリ化を防ぐために、過去の評価結果をもとに、評価項目の重点化を図り、評価する。そのことが、学校運営のさらなる改善につながると考えられる。 ・学校関係者評価の結果が、学校改善に活用されていると思われる。 	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：教育課程等の状況＞		
1	学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか	3. 8 (3.5)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を組織し、校内研修や授業研究、管理職の授業参観等多様な方法を活用し、教育課程の編成、実施、評価、改善に努めている。 ・教育目標の具現化に向けて教育課程を編成し、新年度には職員会議等で全職員の共通理解を図っている。 ・教育課程編成委員会の中で十分に議論し、職員会議や校内研修の中で遺漏のない教育課程の編成、実施に努めている。 ・学校や地域の特性をいかした教育課程の編成・実施・評価・改善に向けて全教職員共通理解のもと取り組んでいる。 ・本校の教育目標を踏まえ、今年は「創造」というキーワードのもと教育課程が編成・実施され、職員会議等で熟議され、教職員間に共通理解が深められた。 ・地域の生徒の状況等をよく理解している学校関係者評価委員の方々の意見を真摯に受け止め、活用を図っている。 	
評価委員の意見	・教育目標達成のために、細部にわたる重点目標を立てて、教職員間での共通認識を図るよう努力されている。	
2	各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか、また指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか	3. 9 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の活用や各学級への全職員による複数指導により、基礎的基本的な内容の確実な定着・意欲の向上を図る指導体制が整備されている。 ・学習指導要領に示された時数を基準に、適切な年間指導計画を作成し指導時数の確保を行っている。 ・本校の教育目標達成に向け、教育課程が編成・実施されている。また、常に確認・点検することにより、職員間で共通理解を深めてきた。 ・道徳や特別活動については、学年会議の中で、十分な検討の上実施されている。 ・授業時数も若干の余裕をもって実施している。実施可能な範囲で、児童の実態に応じた少人数指導にも取り組んでいる。 ・教務主任を中心に年間指導計画が作成され、TT指導や少人数習熟度別指導が効果的に取り入れられている。授業時数は週単位で集計・確認がなされていた。 ・教育課程に沿った指導計画のもと、教育効果を向上させる指導空間・指導形態・指導体制を工夫し取り組み成果を上げている。また授業時数も年度当初の計画で学期毎のまとめの時数を確保するとともに、毎月実施状況を確認し、調整を図っている。 ・中3の授業時間数確保（進行管理）には教務部を中心に気をつけて実施している。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画については、常に点検や評価を行い、改善しながら進めていく必要がある。その実践が外部に見える形になるのが望ましい。 ・新学習指導要領で道徳が教科になるので、その点の研修を今から推進していく必要がある。 	

《評価領域：組織運営等の状況》		
＜項目：授業の状況＞		
1	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか	3. 8 (3.6)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や特別活動、総合的な学習の時間等において、児童の興味・関心を生かした体験的な学習や自主的な学習に取り組んだ。 ・TTを活用した習熟度別学習や理科・社会科での体験的な学習や問題解決的な学習を適切に行 	

	<p>っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の利点を生かし、児童生徒一人一人が十分に体験できる時間を確保し、学習意欲の向上や本物に触れることの大切さを実感させるための活動を積極的に取り入れた学習を展開している。 ・小中の交流学習等を通して、児童生徒に興味・関心を持たせることもできた。 ・地域人材や地域の環境を有効に生かして教育活動を実施し、児童の学習に対する意欲が高まった。 ・生徒の体験活動を位置づけた「特色ある教育」を、生徒の自主的・自発的な学習につなげていけるよう取り組んでいる。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた取り組みとして、長期休業日中の児童生徒への方策については、ぜひ、すべての小中学校で行っていただきたい。【全学校で実施済】 ・体験的な学習や問題解決的な学習の時間確保に苦労されていると思うが、今後も適切な学習につなげていけるよう、取り組んでほしい。 ・学習や学力、生活、運動体力などの取り組みに向けての改善方策など、的確に児童生徒に生かされる取り組みが見られる。 	
2	視聴覚教材や教育機器、コンピューターや情報通信ネットワーク、電子黒板などを効果的に活用した授業が行われているか	3. 8 (3.4)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad、実物投影機、コンピューターや電子黒板等の有効活用を進め、児童生徒の興味関心を高めたり、知識理解を深めたりした。 ・実物投影機については、日常的に活用が図られ、ノート指導等に効果を発揮している。 ・ICT機器の有用性を生かし、理科や総合的な活動を中心に活用した。児童生徒が視覚的に捉えることができ、理解の深まりに繋がっている。 ・技術科を中心にコンピューター、情報通信ネットワークを効果的に活用した授業を行っている。また、理科においてもデジタル画像を有効に活用した授業が行われている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会が、教職員の研修の充実を計画的に進め、より多くの教職員が、ICT機器を有効に活用できるようにしていく必要がある。 	

<p>《評価領域：組織運営等の状況》 <項目：特別支援教育の状況></p>		
1	特別な支援を必要とする児童生徒について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか	3. 8 (3.8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援について、情報交換・指導体制の確認を全職員で様々な場面できめ細やかに行っている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に児童や保護者のニーズに合った個別の指導計画を作成し、週1回の特別支援教育打合せで進捗状況を適切に確認している。 ・通常学級に在籍する特別な支援を要する児童を含めて、コーディネーターを中心に児童の到達目標と必要な支援を具体化した支援計画表を作成し、保護者の共通理解を得、学校と家庭で一貫した指導を行い、子どもたちの確かな変容をみる事ができている。 	

<p>《評価領域：組織運営等の状況》 <項目：教職員の研修の状況></p>		
1	授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか	3. 8 (3.7)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や参観日などで計画的に授業を公開し、授業力向上を図る研修を中学校と連携を図りながら行っている。 	

IV 平成26年度 学校第三者評価

況	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の研究主題にもとづき、全員が研究授業を行い、授業改善に努めた。また、公開研究会や研修講座等への積極的な参加を促してきた。 ・研究部が中心となり、東小の学力向上のため研究を深めている。また全学級で授業を公開し、授業力向上に努めている。 ・全教職員で授業研究に取り組み、教育実践研究発表会で外部の方からの評価や助言をもらい、研修を深めた。日々の実践にも生かす工夫に努力している。 ・学習指導における研究主題を設定し、その主題の解決に向け継続して進められている一人一授業研究等、意欲的に取り組んでいる。
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して、小中連携を積極的に進めている学校がある。先進的取組として、そのことを他の学校に発信し、広めていってほしい。 <p>【改善方策：小中の連携を進めている学校の情報を共有することにより、今後の学校運営の在り方として活用していく】</p>

<p>《評価領域：指導・管理の状況》</p> <p>＜項目：生徒指導＞</p>		
1	生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか	3. 9 (3.9)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活目標反省（含むいじめアンケート）や教育相談、Q-U 検査などを計画的に実施したり、家庭訪問を行ったりして児童理解を深めている。 ・相談員による教育相談との連携も進んできている。 ・教育相談を定期的実施し、全教職員で情報交流・共通理解し、児童個々の小さな変化も見逃さないよう努めた。 ・日常的な児童観察に努め、年3回の教育相談週間を設け、予防的生徒指導を心掛けている。 ・年2回の定期相談に加え、実態に応じ、日時を問わず対応している。 ・定期的な教育相談とあわせ児童生徒からの要望があったときや、普段の児童生徒の観察の中で教師側から声をかけ教育相談を実施し、メンタル面でのサポート強化に努めた。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、ある程度のカウンセリングなどの手法を身に付けることにより、教育相談が内容のあるものとなり、効果的な指導へとつながっていくと考えられる。 	
2	スクールカウンセラーなどの外部人材が活用されているか	3. 5 (3.4)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターが外部との窓口になり、連携を図り活用している。 ・特別支援教育にかかわる教育相談や関係機関等との連携を図りながら指導支援に努めた。 ・毎週1回スクールカウンセラーが来校し、日常的な悩みや不登校やいじめを訴えてきた児童及び保護者に対し、カウンセリングを行っている。 ・スクールカウンセラーについては、生徒・保護者・担任の三者がそれぞれの立場で効果的に活用している。また、家庭に係わる問題については、こども未来課との連絡を密にしている。 ・スクールカウンセラーの活用はないが、地域の施設や市教委との連携を図って児童の心身のケアを行っている。 ・スクールカウンセラーが配置され、課題のある児童の観察や指導方針・指導方法等のアドバイス、保護者との教育相談等々、効果があがっている。 ・不登校の生徒に対しマイクラスと連携をとり、学習指導や体験的活動を実践した。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・研修などを通じて、教職員がある程度のカウンセリングなどの手法を身に付けていくことも必要である。（外部の人材に頼るだけでなく） ・学校間に較差が感じられる。学校長の認識を高める必要がある。 <p>【改善方策：教員のコミュニケーション能力向上に向けて研修会を開催しているが、さらに多くの教員の参加により質的向上を図るとともに、カウンセリングの研修会の開催を各学校に推奨する】</p>	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：児童生徒の人格的発達の状況＞		
1	相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる児童生徒を育成するための指導を行っているか	3. 8 (3. 8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい人間関係を醸成する言語環境の整備、「あいさつ運動」の徹底を図り、コミュニケーション能力向上を図っている。 ・温かな人間関係を基盤とした教師の指導とともに、児童会の「いじめゼロスマイル宣言」の取組を進めている。平成27年度に向けての発展した取組を志向している。 ・よさを認め、ほめる指導を推進してきた。また、道徳の時間を中心として豊かな人間関係を構築するよう指導してきた。 ・ボランティア活動・読書活動・日常の教育活動・道徳の授業の充実に努めた。参観日で道徳の授業を積極的に公開している。 ・道徳の授業を基軸に全教育活動を通じて道徳教育を推進している。また、豊かな人間関係を築く指導も行っている。 ・相手を思いやることのできる指導を実施しているが、生育環境との関係もあり、実態として効果が上がり切れていない部分がある。 ・学校教育全体で道徳教育を推進したり、集会活動の工夫を行ったり、全校縦割り班一斉清掃等に取り組んだりした。 ・道徳推進教師を中心に全教育活動を通じて道徳の時間に相手の人格を尊重し、豊かな人間関係をつくれる生徒を育てる指導を行っている。また道徳を参観授業として積極的に行っている。 ・Q-U 検査を活用し、人間関係力の育成を図っている。また、豊かな人間関係を築く指導も行っている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「富良野市いじめZERO推進条例」に基づき、「いじめ問題審議会」を中心に具体的な活動を進めていく必要がある。特に、パソコンや携帯電話については、専門機関と連携した取り組みが必要である。 ・道徳を参観日の公開授業として実施していることは評価できる。 ・学力だけでなく、心も体も含めたバランスの良い学力向上をめざしてほしい。 	

《評価領域：指導・管理の状況》		
＜項目：保健管理の状況＞		
1	日常の健康観察や、疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか	3. 8 (3. 7)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭と担任が密に連携を図り、自己の健康管理能力向上のための保健指導を行っている。 ・養護教諭による健康保持増進の指導を始め、担任が毎日健康観察を行ってきた。健康診断も養護教諭を中心に適切に実施された。 ・毎朝の担任による健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともに、養護教諭を中心に計画的に健康診断を適切に実施している。 ・毎朝の健康観察により、児童の健康状況を的確に把握するとともに、生活リズムチェックシートの活用など学級活動・保健の指導を工夫し児童の自己健康管理能力の向上を図っている。 ・必要に応じて研修時にスクールカウンセラーに来校していただき研修を深めた。また、生徒の教育相談に入っていた。 	

≪評価領域：指導・管理の状況≫ <項目：安全管理>		
1	学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか	3. 8 (3.2)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜危機管理マニュアルの更新を行い、一人一人にファイルを渡し、朝の会での確認などにより全員が共通行動とれるようにしている。 ・危機管理マニュアルの整備・活用と防犯カメラの活用により、緊急事態に対応できる体制づくりと危機管理意識の向上に努めている。 ・緊急事態発生時に適切に対応できるよう危機管理マニュアルを用いた職員研修を行った。一層、教職員の危機管理意識を高める取組が重要である ・新校舎になったことに伴い危機管理マニュアルを新たに作り直し、食物アレルギーなど新たな内容も追補した。 ・地域と協力し、安全教育の推進とともに事故防止に努めた。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、集団下校訓練や防犯教室等で活用を図った。 ・市中心部から離れていて、安全管理の危機意識が低調傾向であるが、改善に向け、危機管理マニュアルを生徒指導部が見直し取り組んでいる。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に係る実践を想定した訓練が必要である。 	

≪評価領域：指導・管理の状況≫ <項目：進路指導（キャリア教育）の状況>		
1	児童生徒の将来の夢や希望を育み、学ぶことや働くことの意義など適切な勤労観や職業観を育てるための指導を行っているか	3. 2 (3.2)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間の共通理解にたった指導とマイノートの工夫・改善を行っていく必要がある。 ・「名人に弟子入り」「職業講話」等を通して様々な人材や機会から学び、勤労観や職業観を養ってきた。 ・キャリア教育の全体計画は作成しているが、教員間の連携のとれた職業観や勤労意欲の向上に向けた指導改善が必要である。 ・児童生徒の夢や憧れを育み、適切な勤労観や職業観を育む指導を行った。 ・学年の発達段階を意識して職業体験等、ZERO 運動と関連させて「生き方」につながるキャリア教育を実施している。 ・マイノートを年間計画に組み込んで利用している。低学年のうちから勤労体験を積むことにより、働くことの意義を理解させようとしている。 ・キャリア教育の全体計画に基づき、各教科や領域等でキャリア教育の視点を意識した実践に取り組んだ。 ・総合的な学習の時間を核として、各学年キャリア教育の時間を確保し、適切な勤労観や職業観を育む指導を行った。 ・全学年での農園活動による勤労体験や2年生での職場体験学習を実施し、計画的にキャリア教育の指導を進めている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育は、職業指導だけではなく、近年の社会状況の変化から、人間関係形成能力や自己理解・自己管理能力などの育成が重視されてきている。そのような意味で、「マイノート」などを積極的に活用し、キャリア教育を充実させていく必要がある。 ・学校間に較差があり、市内学校で統一性を図る必要性を感じる。 ・より身近な保護者等を招いて職業講話を行い、勤労観や職業観を養う機会を設けてはどうか。 ・職業体験学習を通じて働くことの意義を学ぶことは、将来に向けた教育として礼儀等を学校教育以外で学ぶことも大切である。 <p>【改善方策：キャリア教育推進会議において情報共有化を図る】</p>	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況＞		
1	児童生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握し、適切に対応しているか	3. 6 (3.5)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学期・行事毎にアンケートを実施し、保護者の考え方や要望の把握に努めている。 ・学校行事や参観日・PTA行事等を通して、児童生徒や保護者の意見や要望に耳を傾け、学校運営の改善に努めた。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAを中心に、保護者と教職員が学校教育の課題について、共に研修する機会を設定し、課題解決に向けていってはどうか。 ・適切に対応していると思われる。 ・保護者及び地域を大切にする学校環境であることが垣間見られた。 <p>【改善方策：コミュニティスクールの導入について検討する】</p>	

《評価領域：家庭と地域との連携協力の状況》		
＜項目：学校に関する情報提供＞		
1	学校だよりや学級だよりの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか	3. 8 (3.6)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより（毎月発行）や学級通信（毎週発行）、父母と先生の会発行の「学校の窓」、参観日の校長講話等を通して情報の公開を進め、保護者・地域へ学校をよりよく理解していただいている。 ・保護者の知りたい情報に対応するために内容を吟味し、学校便りを定期的に発行し、またFacebookを活用し学校の情報公開を行っている。 ・通信や参観日の懇談のほか、家庭訪問や電話により連絡を密に取り合い、早急で適切な対応に努めている。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ発行する学校だよりを、多くの人に見てもらうためには、情報量をもう少し、少なくしていく工夫が必要ではないか。 ・学校長を中心とした学校での努力を感じられる。 	
2	ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に学校に関する情報を提供するための取組を行っているか	3. 4 (3.2)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実を図り、学校に関する情報の提供を進めている。 ・学校だよりは地域全戸に配布、ホームページも適宜更新し、学校情報の提供に努めてきた。 ・地域行事への参加を通して、地域住民との交流に努めた。 ・ホームページを開設し、各行事の情報等やお知らせ等、定期的に新しい学校の情報の提供に努めている。 ・「児童養護施設」を抱える特殊事情があり、公開には制約がある中で取り組んでいる。ホームページの更新は技術面で課題がある。 ・Facebookを開設し、教育活動や学校の特徴、小規模校ならではの手厚い個別指導など、常に新しい学校の情報の提供に努めている。 ・ホームページを開設し、スクールカレンダーや行事予定等を公開している。まちcomiメールも活用して保護者に、不審者情報等を配信し、注意を喚起している。 ・学校だよりやPTA総会の資料等、自治会や町内会の協力のもと、地域住民にも配布しているほかに、地区教育懇談会を開催し取り組んでいる。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校のホームページが適宜更新されているか、確認しておく必要がある。 ・学校間に格差を感じる。校長会、教頭会等で議論すべきである。 <p>【改善策：ホームページの更新確認を常に行う】</p>	

≪評価領域：家庭と地域との連携協力の状況≫ <項目：保護者・地域社会との連携の状況>		
1	授業や教材の開発に地域の教育資源（人・物・自然など）を活用し、より良いものとする取組を行っているか	3. 8 (3. 8)
各学校での取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野自然塾、地域の指導者との協働を志向した授業実践を進めている。また、学校ビオトープなどで身近な自然の活用も志向している。 ・地域ふれあい祭りや高齢者との交流、職場体験学習等を通じて、教育活動に地域の教育資源を積極的に活用している。 ・地域に存在する教育資源を有効に利活用した教育活動を行っている。 ・富良野市演劇祭、メセナ事業、富良野自然塾等々、関係各所と連携しながら多様な教育活動を展開している。 ・総合的な学習の時間で1年は富良野ウォーカー「職業調べ」2年は「職場体験学習」で地域を交流し人材活用に努めることができた。 	
評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・富良野市では、地域や保護者の協力を得ながら、各学校が積極的に活用し学校教育に生かしている。 ・学校では、外部の人材を活用しようと努力している。時数が許す限り、多くの外部講師を導入することは、将来に向けて有用と思われる。 ・校区内の施設訪問など、地域を生かした教育活動に取り組んでいる。 <p>【改善方策：学者融合推進事業、学校支援地域本部活動等による地域との連携・協力をさらに推進するとともに、コミュニティスクールの導入について検討する】</p>	

V 教育行政評価委員会の開催について

1、教育行政評価委員会

教育行政評価委員会は、委員4名の委嘱により、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定及び教育行政評価委員会設置要綱に基づく富良野市学校第三者評価を行いました。

教育行政評価委員会では、教育委員会から提出した資料（教育委員会の活動状況及び事務事業点検・評価60事業）について事務局より説明し、それに対する教育行政評価委員側からの質疑を交え意見交換を行いました。

また、学校第三者評価を実施するために、学校自己評価及び学校関係者評価の結果並びに学校第三者評価項目に対する学校自己評価結果について説明をするとともに、市立山部小学校及び市立山部中学校の学校訪問を行い校長・教頭との意見交換、授業参観を行いました。さらに校長会会長、副会長との意見交換を行いました。

1) 第1回会議 5月29日（金）開催

- 教育委員会事務事業点検・評価シートの説明、質疑
- 教育委員会の活動状況の評価説明、質疑
- 学校関係者評価集約結果の説明、質疑
- 学校第三者評価個別評価シートの集計結果説明、質疑

2) 第2回会議 7月8日（水）開催

- 学校訪問～市立山部小学校、市立山部中学校

3) 第3回会議 7月21日（火）開催

- 学校訪問における感想、意見交換
- 校長会長、副会長との意見交換
- 事務事業点検評価項目の質疑に対する説明
- 学校第三者評価のまとめについて
- 広域連合教育委員会教育行政評価報告書について

4) 第4回会議 8月5日（水）開催

- 平成26年度富良野市教育行政評価報告書【事務事業点検・評価及び学校第三者評価】（案）に対する最終意見交換

2、教育行政評価委員会における意見

「教育委員会事務事業点検・評価」については、第5次富良野市総合計画前期基本計画第1章「基本目標1 時代を担う子どもたちをみんなで育むまちづくり」、第2章「基本目標2 やさしさと生きがいを実感できるまちづくり」の視点、並びに「平成26年度富良野市教育推進の重点」、「平成26年度富良野市社会教育推進計画」に基づいて平成26年度中に実施した事務事業60事業と教育委員会活動状況について事務局で整理し、第1回会議にて説明いたしました。各委員からは11項目に渡り質問・意見が出され、担当課との意見交換を経て、総体的に実践が進み期待どおりの効果となっているとの意見が出されました。

1) 教育委員会の活動状況

近年、地方分権の進展とともに教育委員会制度の改革が進められるなど、教育をめぐる社会環境は大きく変貌しつつあり、それに伴う問題も複雑多岐にわたっています。教育委員が常に教育環境の状況把握に努めるために活発な議論をし、富良野市の教育の基本理念を確認し共有することが益々大切となっています。

教育委員の学校訪問においては、子どもたちとのふれあいや学校現場の生の声を聴くことは大切なことであり、各学校の特徴ある学校経営や抱えている課題等を把握、対応することが大切であります。

2) 学校教育について

教育委員会に課せられた最大の職務は学校教育の充実にありますが、市内の小中学校では「富良野市第2次学校教育中期計画」に基づいて教育活動計画等を策定し、毎年の検証・評価を経ながら教育活動を改善しています。

また、長期休業日における学習サポート事業は全学校で実施し、学力向上に向けて教職員一丸となり取り組んでいます。

今後も児童生徒の学力向上に向けて、学力の基本となる「読み・書き・計算」をしっかりと身につけさせ、学習意欲を高めながら子どもの個性を生かす教育を充実するとともに、確かな学力・人間性豊かな教育を推進し、「生きる力」を育む教育課程の編成、実施、評価、改善のより一層の計画的な推進が必要であります。

さらに、学校における危機管理意識の共有化を図り、職場の雰囲気づくり、特に情報が校内で共有化される体制づくり、教員が管理職に相談できる体制づくりが大切であります。

3) 社会教育について

社会教育及びスポーツの振興は、個人の要求に応えることではなく、市民の必要課題に基づく学習内容に対応する企画立案や社会教育関係団体の育成等、生涯学習の観点に立った推進が大切です。

社会教育に関する各種事業は社会教育中期計画並びに単年度社会教育推進計画に基づき推進されており、事業内容も「子ども未来づくりフォーラム」や「学社融合推進事業（学校支援ボランティア）」、「子どもスキー技術向上支援事業」、「子どもの読書推進事業」など高く評価いたします。

なお、市民講座は、学習ニーズに応えることと合わせ、一方では市民生活に必要な地域課題や今日的課題に対応した講座提供も必要であり、今後、趣味的要素の強い講座だけではなく、課題解決に向けた講座の開設についても検討の必要があります。

また、就学前児童に対する図書館利用者カードの発行は、子どもの読書環境整備に有効と思われるため、発行に向けて調査・研究の必要があります。

4) 学校第三者評価について

学校第三者評価は、単に学校の格付けや教諭を評価するためのものではなく、保護者や地域住民が学校と共に子どもたちを基本に考えることにより、より良い「開かれた学校」をめざすものであります。

学校第三者評価は、学校自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価項目の自己評価、学校訪問、校長会会長・副会長との意見交換を基に、評価項目に対する各学校の取組み状況に対し各委員の意見をまとめました。

今後も、評価項目のみならず学校運営全般に関し、自己評価、学校関係者評価、学校第三者評価の結果を、より良い「開かれた学校」のための貴重な資料として各学校において活用する必要があります。

5) 校長会会長・副会長との意見交換

富良野市第2次学校教育中期計画及び富良野市教育の重点方針における基本理念や重点方針を受け、各校では学校経営と学校教育において、その実現への方向性が示されていることは、大切なことであります。

本市においては、幼稚園・保育所と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校の異校種間連携に取り組み、その成果が上がってきており、今後も継続・改善・充実していくことが必要であります。

また、市 PTA 連合会と市教育委員会が連携して取り組んでいる学力向上やいじめ防止を含めた児童生徒指導の充実、家族の約束 7 カ条の推進の取組みなども評価をするものであります。

さらに、いじめ防止に対する取組みは、富良野市いじめ ZERO 推進条例が制定されましたので、本市からいじめをなくすことをめざして、学校内での情報共有や関係機関団体の連携、市民への周知など積極的な対応が望まれます。

資料：1

富良野市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条に基づき、富良野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する行政評価の透明性を確保するとともに、学校教育法（昭和22年法律第26号）第42条、第49条及び富良野市立学校管理規則（昭和56年教育委員会規則第2号）第6条の4の規定に基づき、富良野市立の小学校及び中学校の学校教育活動、学校運営の状況等の評価について、教育に関し学識を有する者の知見を活用するため、富良野市教育行政評価委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1)教育委員会が実施した事務事業の点検及び評価について、教育委員会に意見を述べること。
- (2)学校関係者評価について、教育委員会に意見を述べること。

(構成)

第3条 委員会は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育長が委嘱する4名をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度末までとする。

(運営)

第5条 委員会には、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員会は、必要に応じて委員長が招集する。
- 4 委員会は、審議のために必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、事務事業評価に関する事務を所管する課が処理する。

附 則

- 1 この要綱は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 最初の委員会は、第5条第3項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

附 則

- 1 この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、公布の日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

資料：2

教育行政評価委員名簿

委員長	天 日 守	社会教育委員長
副委員長	加 藤 弘 明	学識経験者（元学校長）
委員	佐々木 賢 一	ふらの体育協会専務理事
委員	山 本 英 恵	学校読み聞かせクラブ

資料：3

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号〕

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

資料：4

平成 26 年度 富良野市教育委員会 重点事項 ～すべては子どもたちのために～

平成 26 年 4 月 1 日
富良野市教育委員会

<基本理念>

「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」

(富良野市第 2 次学校教育中期計画)

<重点方針>

子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」をオール富良野で育てていくことを掲げ、教育のコンセプト「連続、継続、接続」を基軸に『富良野市 Z E R O 運動』を推進し、各学校や教職員等が教育の原点を見つめ直し、幼・小・中・高との連携を強化し教育実践の輪を広げる。

また、教育の原点である知育・徳育・体育の調和のとれた子ども達の着実な育成を基本にグローバル化を据え、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、子ども達の無限の可能性を伸ばす教育の充実に努める。

<重点課題>

- 1 富良野市におけるいじめゼロに向けた「富良野市いじめ Z E R O 推進条例」(仮称)を制定する。
- 2 道教委(上川教育局)との連携の下、確かな学力・体力向上をめざし、授業改善及び授業公開と家庭学習を含めた望ましい生活習慣の定着を図る。
- 3 教育行政評価委員会(事務事業点検・評価、学校第三者評価)を設置し、教育行政及び学校教育の現状と課題の検証・評価を行い改善を図る。
- 4 地域全体で学校を支えるため、地域の教育力や学校支援ボランティアのさらなる活用を図る。
- 5 食は健康の源、食育は最善の予防医学との認識のもと、食育ガイドラインを基本として食育を推進する。
- 6 東小学校校舎・屋内運動場改築 2 期工事及び樹海小学校校舎等耐震改修を進め、児童生徒の教育環境の向上に配慮した安全・安心な学校施設整備を図る。
- 7 国際都市富良野市の人づくりを推進するために「英語が話せるふらのっ子」をめざすとともに、少年野球を通じた国際交流等に向けて、中学生を台湾へ派遣する。

＜重点項目＞

1 いじめゼロに向けた取り組み＜情意＞

- ・「富良野市いじめZERO推進条例」（仮称）を制定し、いじめの根絶に取り組む。
- ・富良野市少年育成協議会を中核に据え、各学校での実質的で組織的な危機管理体制の確立や子どもの諸問題の解決等に取り組んでいくとともに、早期対応と関係機関同士の情報の共有を定期的に行う。
- ・学校教育アドバイザー、適応指導教室指導員（社会福祉士有資格者）及び子どもと親の相談員（臨床心理士有資格者）、スクールカウンセラー（臨床心理士有資格者）を引き続き配置し、子どもたちの心の問題をケアできる体制づくりを図る。

※子どもと親の相談員、スクールカウンセラーの配置について

- 1) 富良野東中学校、富良野西中学校、扇山小学校 …… 松田剛先生を配置
- 2) 樹海中学校 …… 松田剛先生、石黒三知子先生を配置
- 3) 富良野小学校、東小学校 …… 石黒三知子先生を配置
- 4) 必要に応じて市内全校にて対応可能

2 特別支援教育について＜知育＞

- ・幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校等への引き継ぎや相談体制の充実及び保健医療福祉との連携、コーディネートを図るべく、特別支援教育アドバイザーを引き続き配置し支援体制の充実を図る。
- ・一人ひとりのニーズに応じた教育を推進するために、富良野小学校、扇山小学校、東小学校に各4名、山部小学校、鳥沼小学校、富良野東中学校、富良野西中学校にそれぞれ1名、計16名の特別支援教育支援員を配置し、校内における支援の充実を図る。
- ・支援の必要な児童生徒のために、社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院との連携による療育支援事業を実施するとともに、子ども理解からはじめる学習指導の徹底を図る。（平成23年9月27日付け富教第558号通知）
- ・就学前児童への子どもの成長記録ファイル「すくらむ ふらの」を活用し、学校間の引き継ぎ等における活用を推進する。

3 外国語活動について＜知育＞

- ・外国語指導助手（ALT）4名を小学校へ2名、中学校へ2名派遣するとともに、富良野市外国語活動推進委員会において、推進体制や指導形態の工夫改善に向けて担任教諭とALTとの協議を進め、小中連携による外国語活動の推進体制を整備する。
- ・外国語活動を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成に向け、「英語が話せるふらのっ子」をめざした取り組みを推進するとともに、「放課後英語ランド」、「朝の英語活動」、「イングリッシュキャンプ」等の実施により外国語活動の充実を図る。

4 全国学力・学習状況調査等について〈知育〉

- ・調査結果において全国平均正答率以上を目標に掲げながら、引き続き詳細に把握・分析し、具体的な学習改善プランを明らかにし、学校評価と関連させながら、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・地域の方々や校内外の教職員に対する「授業公開」「研究授業」を積極的に進め、「地域に開かれた学校づくり」、「教員の授業研究、授業改善」に向け取り組む。（年2回程度の地域授業公開）
- ・指導方法工夫改善加配等による習熟度別指導や少人数指導等の導入、退職教員外部人材活用事業による時間講師の配置によるチーム・ティーチング等を導入し、児童生徒の学力向上に取り組む。
- ・地域連携研修計画において、小規模6校が各教科における学習指導法の改善点を明確にし、言語活動を充実させ学習意欲向上に努める。

5 防災教育・危機管理について〈健康〉

- ・自然災害、事故、事件等の危機管理体制の徹底を図るとともに、富良野警察署や富良野消防署等と連携し、引き続き、各学校及び保護者を中心として、児童生徒の安全対策の充実を図る。
- ・虐待問題に対しては、こども未来課や警察署等関係機関との連携強化を図り対応する。

6 道徳教育について〈情意〉

- ・児童生徒や学校、地域の実態を踏まえた「富良野市ZERO運動」を中核に捉え、道徳教育の推進と規範意識の醸成を図る。
- ・富良野にゆかりのある講師陣による「心に響く道徳教育」を推進する。

7 演劇から学ぶ心の教育について〈情意〉

- ・演劇は人間性を高め自己表現の場として「話す力・聞く力・伝える力」が育成され、心の教育にも結びつくため、引き続き「文化芸術による子どもの育成事業」（文化庁事業）の活用により、演劇活動や演劇鑑賞を通して、児童生徒の自主性やコミュニケーション能力の向上と個性の創出などを図る。

8 環境教育について〈知育〉

- ・「富良野自然塾」の活用など、本市における自然環境を生かし、様々な体験活動を通して、自然に対する豊かな感受性や生命を尊重する精神、環境に対する関心などを培う教育の充実を図る。

9 食育について〈健康〉

- ・「子どもたちのための食育ガイドライン」に基づき、子どもの発達段階に応じた食育を

栄養教諭と養護教諭が連携を図りながら実践する。

- ・学校給食の「食べ残しゼロ」運動や基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」運動を学校教育と社会教育が連携し推進する。

10 キャリア教育について〈情意〉

- ・富良野市キャリア教育推進会議が中心となり、学校と家庭・地域・事業所との連携を構築し、キャリア教育の推進と充実を図る。（平成19年度文部科学大臣表彰 受賞）
- ・各学校が、各教科及び各種事業をキャリア教育の視点でも捉え、有効活用を図る。

1 1 市中高等学校経営連絡協議会について〈知育〉

- ・進路指導と生徒指導を中心に進めている市中高等学校経営連絡協議会において、引き続き学力向上に向けたプロジェクトを推進し、魅力ある学校づくり等を目指す。
- ・市内中学校と高等学校との相互の授業参観交流と授業の指導の工夫改善と連携強化を図る。

1 2 情報教育について〈情意〉

- ・各学校のパソコン、タブレット端末、テレビ、電子黒板、などを活用した学習方法の工夫、充実に努める。
- ・学校、家庭、PTA、関係機関団体との連携を強化しながら、情報モラル教育の徹底を図る。
- ・保護者へのアプローチ（参観日、出前講座、セミナー等）により、家庭でのルールづくりや危機管理の徹底を図るとともに、家族の約束7か条の推進とネット被害から子どもたちを守る取り組みを進める。

1 3 子ども未来づくりフォーラムについて〈知育〉

- ・子どもたちの表現の場として、表現力、思考力、コミュニケーション能力を高めるために、引き続き「学習実践発表」「少年の主張」「会場参加型交流会」の3部構成とし、より一層の充実を図る。

1 4 放課後子ども教室の開設について〈情意〉

- ・放課後における子どもたちの安全・安心な居場所を提供する「放課後子ども教室」を26年度も継続して山部小学校、樹海小学校、布礼別小学校、布部小学校で開設する。

1 5 アスリートの育成・強化について〈健康〉

- ・少年期からの競技スポーツの夢への挑戦と大きな舞台での試合経験を積み重ねるために「アスリート育成派遣費補助金」の継続及び充実を図る。
- ・少年野球を通じた国際交流等に向けて、中学生を台湾へ派遣する。

16 家庭教育について〈情意〉

- ・人間形成の出発点である家庭の教育力を高めるために、子どもの発達段階に合わせた「家庭教育ハンドブック」を引き続き作成、活用する。
- ・幼児期からの読書活動の動機づけに効果がある「ブックスタート事業」を継続実施する。

17 学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）について

〈知育・情意・健康〉

- ・心豊かで健やかに育む環境づくりに地域の教育力を活かし、地域全体で学校教育を支援する学社融合推進事業（学校支援地域本部事業）の更なる推進を図る。（平成 23 年度「文部科学大臣表彰」受賞）

18 学校における読書の推進について〈知育〉

- ・市立図書館、各学校、学校支援読み聞かせボランティア等と連携した取り組みを推進する。（平成 22 年度「文部科学大臣表彰」受賞）
- ・小学校新 1 年生の図書館利用登録の推進
- ・学校図書館のデータベース化
- ・ブックトラック事業、ブックフェスティバル事業の推進

19 コミュニケーション教育推進事業について〈情意〉

- ・コミュニケーション能力向上における学習機会の提供を行い、「他者理解」「話す・聞くの基本」「信頼関係の構築」など、コミュニケーション能力の基礎を学ぶ機会とする。
- ・コミュニケーション能力の育成に向けた教育を推進するため、演劇的手法を活用した教職員研修の継続実施と充実を図る。

20 土曜授業及び土曜日の教育活動の取組みについて〈知育〉

- ・土曜授業及び土曜日の教育活動の取組みについて、学校、市 PTA 連合会、関係団体と協議を進め、富良野らしい取り組みを検討していく。

以上、平成 26 年度の基本理念、重点方針、重点課題、重点項目を記載しましたが、組織（市教委、学校）が一枚岩となり、保護者への情報発信、説明責任などを行いながら、子どもたちの未来を力強く切り拓くための実践教育活動の推進に向け取り組んでいきます。

「教育は未来への遺産づくり」

平成 26 年度
富良野市教育行政評価報告書
教育委員会事務事業点検・評価
学校第三者評価

発行：平成 27 年 8 月

富良野市教育委員会